

感染症定点観測報告書

(昭和55年)

昭和56年2月1日

東京都立図書館資料コード



3110140513

東京都医師会感染症予防検討委員会

東京都衛生局公衆衛生部防疫課

感染症予防検討委員会委員

委員長	木村 三生夫	東海大学教授
副委員長	平山 宗宏	東京大学教授
委員	甲野 礼作	国立予防衛生研究所 ウイルス中央検査部長
	重松 逸造	国立公衆衛生院疫学部長
	柳下 徳雄	慶応大学教授 慶応伊勢病院長
	今川 八束	都立墨東病院感染症科部長
	村瀬 敏郎	渋谷区・公衆衛生委員会委員長
	中野 一義	新宿区・ " 委員
	柳沢 松男	調布・ " "
	山口 剛	都衛生局防疫課長

感染症定点観測報告書

(昭和55年)



ま え が き

感染症サーベイランス事業は、昭和52年10月から開始されたが、担当の先生方の非常なご協力のもとに、著しい成果があげられ、会員のみならず、会員以外の方々からも高い評価をいただいていることは、まことに喜ばしいことであります。

本事業の成果については、これまでに、昭和53年6月「東京都における感染症定点観測調査」、昭和54年2月22日「感染症定点観測1年間のまとめ」昭和55年3月24日「感染症定点観測報告書」を作ってまいりましたが、ここに昭和55年のまとめをお届けいたします。

感染症サーベイランスは、その後、各地で行われるようになり、昭和56年度には、国の予算により、各地のサーベイランス成績を全国的なレベルで収集、還元を行うシステムが発足されようとしています。もともと、各地のサーベイランスは、それぞれの地域の実状に沿うように、特色あるシステムで運営されてまいりましたので、中央化の動きとは別に、あるいは、それと平行してそれぞれの地域医療を推進するような形でのきめ細かい対応を考える必要があります。本事業も今後、さらに会員各位の要望に沿うよう、改善の実をあげるよう努力することが望まれます。

関係各位のご協力に深謝いたしますと同時に、本報告書が、感染症の実状を知る上で、何らかのお役に立つことを期待いたします。

感染症定点観測のまとめ、 昭和55年1月1日～12月31日

1. 定点観測機関（第1表）

昭和55年第1週からは、前年度から引き続き41定点（区部25，三多摩14，病院2）で行ってきたが、ブロック別のアンバランスを多少なりとも是正する意味で、定点のない区をなくしたいという要望から、小さな変更を行うこととし、第23週（6月1日）から、区部の定点を5カ所増やし、46定点とした。これによって、ブロック別の定点数は以下のようにになっている。

この定点配置は、今後、さらに検討する必要もあろう。

◎ブロック別定点数

中央 6

千代田1，中央1，港2，文京1，台東1，

江東 8

墨田2，江東1，荒川2，足立1，葛飾1，江戸川1，

城西 9

新宿2，目黒1，渋谷2，世田谷2，中野1，杉並1，

城南 3

品川1，大田2，

城北 4

北1，豊島1，練馬1，板橋1，

三多摩 14

秋川1，青梅1，羽村1，八王子1，日野1，多摩1，立川1，小平1，

保谷1，調布1，武蔵野1，三鷹1，府中1，町田1，

病院 2

2. 運営方法

当初より変更はない。

各定点より、毎週、日曜日から土曜日までの対象疾病患者数を、性別、年齢区分別に、所定のはがき調査表に記入したものを直ちに投函してもらい、都衛生局防疫課で集計し、翌週の木曜には集計結果を発送するという形で、速やかな情報の還元を図っている。各定点から対象疾病以外の疾病の情報も記入されているので、これらについても洩れなく還元情報に加えている。また、都立荏原、墨東の2病院の小児感染症病棟入院患者の情報および都内の伝染病発生状況も合わせて報告される。

さらに、毎月1回、定例に（第4木曜）、感染症予防検討委員会において内容を討議し必要なコメントを加えて報告している。

3. 対象疾病の種類

本年度は、前年に引き続き以下の疾病を対象とした。

◎対象疾病

麻疹、風疹、伝染性紅斑、突発性発疹、水痘、手足口病、溶連菌感染症、不明発疹症、ムンプス、百日咳、インフルエンザ、感冒性胃腸炎、その他。

その他の疾病については定点の医師の判断により、適宜、情報を送っていただくこととしている。川崎病は感染症であるかどうかは議論のあるところであるが、最近とくに関心が高まっているので、その他の疾病として報告していただくこととした。

その他の疾病として、報告される主なものは、後述のごとく、ヘルパンギナ、口内炎、咽頭結膜熱、マイコプラズマ肺炎、川崎病、白色便性下痢症、S.S.S.Sなどである。

4. 疾病情報の概要（第2表、第3表、第4表）

報告数は総計34,731件で、53年、54年とほぼ同数か、少し上廻る数である。

この総数はインフルエンザ流行の規模により大きく変わるものである。最近3年間のインフルエンザは53年が多く、54年は少なかったが、55年はその中間で、やゝ53年に近い規模であった。

麻疹は、この3年間に減少が明らかである。水痘は53年に少なく、54年に多かったが、55年にはまた少なくなっている。しかし、55年末から急激な増加傾向があり、56年度はかなり多くなると予想される。ムンプスも、54年に多く、53、55年に少なかったが、今後の増加傾向を監視する必要がある。

伝染性紅斑は、55年度はこれまでも最も報告が多く、春から夏に多かったが、とくに年末に再び増加し、今後の発生状況が注目される。

百日咳は、55年は少なく、この3年間の動きの中では54年がピークとなり、今後減少傾向を示すことも考えられる。

手足口病は、53年に全国的な流行があったが、55年にも全国的な規模で発生をみた。

風疹は5月に小流行がみられたが、その後は一般に平静である。しかし、次の流行に対する十分な監視が望まれる。

突発性発疹、溶連菌感染症、感冒性胃腸炎については、とくに変わった動きはない。

その他の疾病として報告されたもののうちでは、ヘルパンギナがもっとも多く、夏期では、その他の疾病のほとんどを占めている。(図13) 次には、白色便性下痢症、白痢、冬期嘔吐下痢症などの病名が目立った。これは感冒性胃腸炎の中に含めて報告していただいた方が多いのであるが、とくに乳児の冬期下痢症に注目して届けていただいたものであろう。感冒性胃腸炎という病名が、対象範囲が大きすぎることもあるので、今後、別の形で対象疾病にあげることも考慮しなければならないと思われる。マイコプラズマ肺炎、咽頭結膜熱、川崎病にも関心の高いことがみられる。

対象疾病の週別発生を第2表に示した。同表下段に、53年、54年の総計を示した。その他の疾病、流行または多発の情報は第3表にまとめた。第4表は、これらを月別にまとめたものである。

5. 伝染病発生状況（第5表、第6表）

本年度の法定、指定伝染病発生状況を、第5表（週別）第6表（月別）に示す。

総数961名で、しょう紅熱が587名と過半数を占め、次は赤痢の298名、腸チフス31名、パラチフス23名と続いている。これらは何れも54年度よりも少ない。コレラは12例で、患者7、保菌者4、疑1であり、昨年度の4例よりは多い。微生物検査関係の情報ではサルモネラなども含めて海外での感染防止あるいは外国からの侵入病原対策を心掛けなければならない数字である。日本脳炎の確定患者はみられなかったが、豚の日本脳炎ウイルス感染は8月末－9月には認められており、その程度は少ないといっても、毎年、確実に国内に拡がっているということは注意すべき点である。

6. 感染症病棟入院患者（第7表、第8表）

感染症の一般的な発生状況とならんで、入院患者の情報を知ること重要である。このために、都立荏原病院と、墨東病院の小児科感染症病棟の入院状況を毎月、報告に加えている。それぞれの月別入院数を第7表、第8表に示した。

最も多かったのはマイコプラズマ肺炎であり、麻疹、水痘、ムンプス等の合併症としての脳炎、肺炎、川崎病などが目立っている。

入院患者の情報は、病原微生物検査情報と関連して、今後、ますます重要性を増すものと考えられ、病原検査システムの整備と平行して、より多くの入院情報が要望されるものと考えられる。

7. 定点からの報告数の評価（第9表）

各定点からの熱心な報告によって、各疾病の発生状況、流行傾向などの貴重な情報が得られているが、これらの報告にあらわれた数字が、東京都全体として、あるいは地域としての発生数全体のなかに、どのくらいのレベルを占めるものなのであろうか。たとえば、本年度の百日咳の定点からの報告の総計は170であるが、東京都全体としては、何名くらいの発生があつたのであろうか、などという疑問である。この疑問に適確に答えることは、なかなか難かしいが、過去3年間の

データをもとに、試みに、大雑把な推計を試みた。

このために、まず、都内小児人口と水痘患者数から推計を試みた。水痘は不顕性感染が少なく、また、他の疾病のように予防接種等による影響を受けず、小児の普遍的な疾病であるからである。人口としては昭和54年1月1日付の小児人口数を用いた。(第9表)0-14才または0-6才の小児人口から、1年当りの小児人口は約166,000人であり(第9表a)、都内の水痘患者発生数の年間平均は、この数字に近いものと考えられる。このうち、不顕性感染、その他の理由で医師に罹らないものを除いて、仮りに90%が医療機関を受診するとすれば約149,000人、80%とすれば133,000人が把握される患者数ということになる。(第9表a)

水痘についての53-55年、3年間の定点からの報告数は、年平均3,413人であり、(第9表b)これが前述の把握される患者数の何%に当たるかを計算すると、90%把握の場合約2.3%、80%把握では約2.6%となり、それぞれ1:44、1:39の割合で、定点に受診していると推算される。(第9表c)

これらの計算は、定点数も変動があり、水痘流行状況も考慮に入れなければならないし、定点それぞれの受診患者数の相異もあろうが、現在の定点からの報告数は都内の発生数のほぼ $\frac{1}{40}$ を把握しているものということもできよう。

これをもとに、昭和55年度の各疾病の推定発生数(定点報告数 \times 40)を第9表dに示した。

また、各年度毎の各疾病報告数の水痘に対する比率(水痘年平均3,413を100とした場合)を示した。(第9表d)これによると、ムンプスは約60%、百日咳は約7%、インフルエンザは約100~300%等という数字が得られる。また麻疹は、年度毎にみると、53年67%、54年28%、55年10%と減少の傾向が明瞭になる。

これらの推計は、なお、種々の方向から評価、訂正すべきであるが、おおよその推定を行うことはできよう。

8. 定点当り報告数（第 10 表、第 11 表、第 12 表）

各疾病の地域別の動向を知るため、あるいは将来の定点の適正配置などを考えるにあたって、各定点当りの報告数も参考となろう。このために、昭和 55 年度、各ブロック別の報告数（第 10 表）より 1 定点当りの各疾病報告数を第 11 表に示した。下段には、53 年、54 年度の各疾病毎の定点当り報告数を加えた。

この定点数は、休診その他で報告のなかった分を除いた年平均定点数をもとにした。

目立つことは、年平均報告数をみると、区部と三多摩で、定点当り、約 2 倍の開きがあることであり、また、病院からの報告数では疾病によって、集中するものがあると思われることである。

定点の配置は地区別の人口に加えて、各定点当りの患者数を考慮し、適正化して行くことも今後の課題である。（第 12 表）

9. 各疾病別の動向

(1) 麻疹（図 1、第 13 表、図 14a）

麻疹ワクチンが定期接種となったのは 53 年 10 月であり、本定点観測事業が 52 年 10 月から開始されているので、定期接種によって患者発生数がどう動くかを観察する絶好の条件となっている。

麻疹ワクチン接種数は 53 年 10 月から 54 年 3 月までに 71,883 名、54 年度には（54 年 4 月—55 年 3 月）、130,373 名（区部 90,562、市町村部 39,811）である。この数字は期待したよりも少ないということもいえようが、麻疹の抑制にはかなりの影響をあたえるであろうことも十分に予想される。

麻疹の発生数は 53 年の 2,299 名より、54 年 957、55 年 343 と約 1/2 に減少している。55 年のはじめには発生は低く、かなりの期待もされたのであるが、4—6 月に発生が山があり、夏以後に低値となった。年末には多少の増加傾向がみられる。

この減少は、年令別にみると 3—4 才に著しく、ワクチンがよく接種される年令層を中心に発生数の低下がみられている。アメリカの報告では、ワクチンの普

及により、小児の麻疹がほとんどみられなくなると、ワクチン接種を洩れた青年層の患者発生が目立つようになることもあり、今後の発生状況に注目すべきであろう。

使われたワクチンの種類別では北研 AIK-C がもっとも多く、約 60% を超え、次いで武田シュワルツが約 25% で残りが阪大微研 CAM ワクチンであるが、都の予防接種事故診査会における認定例数は 55 年は 9 例で、そのうちの 8 例がシュワルツワクチンである。死亡例は脳症の疑いの 1 例で、他はすべて熱性けいれんである。

(2) 水痘 (図 2、図 14b)

水痘は麻疹のような予防接種の影響を受けず、発疹性伝染病のうちではもっとも多い発生数を示している。流行の程度は年により異なり、53 年 2,966、54 年 4,332、55 年 2,942 と、54 年に多かった。季節別には、8 月 9 月に少ないことを除くと、どの月にも、かなりの発生を見ており、月別の発生数はそれほど変わらない。

55 年の 12 月には急激な増加がみられ、この傾向は 56 年に続くものと予想されるので、水痘の多発には十分な注意が必要であろう。とくに院内感染の防止、水痘罹患が重大な結果を招来するおそれのあるハイリスク児には十分に留意されることを望みたい。

水痘の罹患年齢は 53 - 55 年でほとんど変わらず、4 - 5 才にピークを示している。ちなみに、1979 年のアメリカの水痘罹患年齢の報告をみると、5 才未満 10.2%、5 - 9 才 65.1%、10 - 14 才 19.2%、15 - 19 才 3.6%、20 才以上 1.8% という数字があげられているが、55 年度の都内の状況は 5 才未満 55.2%、5 - 8 才 39.8%、9 - 14 才 5% と、著しく幼児に多く、若年化の傾向が明らかになっている。

(3) ムンプス (図 3、図 14c)

ムンプスの 3 年間の動きは興味がある。年度別には 54 年が流行年で、53、55

年は少ないが、いつでも発生がみられる。53年のはじめは少ないが、6-7月にやゝ増え、8-9月に少なくなったが、その後10月から増加しはじめ11月以降は高い発生数のまま、54年7月まで続き、8月以降低下し、このまま、55年を通して一般に発生は少なかった。55年の中では7月にやゝ多いようであるが、それほど著明ではなく、年末になって、やゝ増加の傾向がみられる。これが、56年度にどのような動きとなるのか、注意したい。ムンプスは冬から春に多いなどとよくいわれるが、それほど季節性は明確ではないようである。9-10月の秋に少ない傾向はあるようであるが、現状における季節別変動については、全国的な傾向も加えて検討してみたい。

年齢別の罹患状況は、3年を通じて変わらず、乳児では水痘よりも低く、4-5才にピークを示している。6才以上の罹患は、水痘よりも低い。

(4) 百日咳 (図4、図14d)

百日咳の増加は全国的な関心を呼んでいるが、都内の発生は、他地域に比べると少ないような印象を受けている。これは、都ではDPT三混接種を継続してきたこともその理由の1つにあげられようが、他県との正確な比較は現状では難しい。定点観測の数字は、53年203、54年298、55年170となっており、54年に高く、55年にはやゝ減少を示しているが、このような傾向は他の地域でも、しばしば聞くようである。今後、改良ワクチンの導入により、接種率が向上すれば、減少傾向は、より著明となると期待される。前述の水痘を指標とした把握率を百日咳にも適用できるとすれば、都内の百日咳発生数は、53年8,120、54年11,920、55年6,800と推定される。

年齢別頻度は、3才未満が73%を占め、1才がピークで約28%、0才の罹患が約25%であるが、この傾向は、3年間を通じて変りはない。

(5) インフルエンザ (図5、図14f)

インフルエンザの流行は、52-53年流行期にA(H1N1)ソ連型が出現し、それまで続いていたA(H3N2)香港型と重なって、患者の多発をみたが、翌53

— 54 年の流行はほとんど A (H1N1) のみの流行で、前年流行による免疫に予防接種の効果も加わり、患者発生は著しく少なかった。この当時には、過去の流行の実績から、香港型は消失し、ソ連型の時代になると想像したものも多かったのであるが、実際には、次の 54—55 年の流行期には、香港型が出現し、ソ連型さらに B 型も加わった三重流行の形をとり、前年よりも患者数はやゝ多くなった。定点からの報告数をみても、53 年 10,023、54 年 4,189、55 年 7,974 となっている。

このように、予想を裏切ったような型になっているので、次の流行の予測は難かしいが A 型については、なお香港型、ソ連型の混合の形が続くであろうし、B 型が勢力を増しているようなので、昨年度と同様の三型混在と考えるものが多い。しかし、三型とも、これまでのウイルスと、抗原性の差異は、それほど著しいものではないので、特に著しい変異株が出現しない限り、流行の規模は、それほど大きくはならないと考えられよう。55 年末までには、全国的にもウイルスは分離されず、56 年に入って、これを書いている時点(2月16日)では、三型とも分離されるようになり、学級閉鎖も認められるようであるが、その程度は昨年度よりも少な目という数字が得られている。

罹患年令の分布は 53—55 年の間で大きく変ってはいない。学童が中心となっている。

(6) 風 疹 (図 6、図 14j)

風疹の流行は昭和 34—36 年、40—42 年、50—52 年と 6—10 年間隔で、それぞれ 3 年間にわたってみられている。この実績からすれば次の流行は 56—60 年の間に起こることが推測されるので、本定点観測も、次の流行の発生をいち早くつかまえることに主眼が置かれている。このためには、できるだけ抗体測定によって確認患者を見出すことが重要となる。また一方、集団発生にも目を光らせておく必要がある。

こういう目で 55 年の状況を見ると、一般的には患者は極めて少ないが、5 月に府中の小学校で風疹による学級閉鎖があり、また、大田区の中学生女子の抗体

検査で、高年の陽性率を示した学校がみられるなど、次の流行の準備状態と考えられるような動きがみられることは興味がある。

府中市では、第6小学校3年2組が5月16-19日、新町小学校では4年2組が5月14-17日、4年1組が5月27-28日及び6月3-6日の2回、学校閉鎖をしており、確認のため、第6小学校は6月30日、新町小学校では7月3日に3つのクラスの全員採血を行い、対象として、それぞれの学校の6年生1クラスの採血を行い、都衛研でHI抗体価の検査を行っている。抗体陽性率（HI $\geq 8 \times$ ）は第6小、新町小4年2,1組はそれぞれ97.4%、92.9%、90.2%を示したのに対し、対象の6年生は548、73.0%と低率であり、抗体価の分布も、罹患クラスでは有意に高値を認めている。

(7) 伝染性紅斑（図7、図14h）

以前には稀な発疹性疾患であったが、最近では日常しばしばみられる病気となっている。この3年間の動きでは、定点からの報告数は53年192、54年436、55年1,120と増加傾向を示している。55年には、春から夏にかけてやゝ増加を示したが、秋に一時少なくなり、また11月の終りから12月に向けて、従来には見られなかったような急激な増加を示している。これに附随して一般にもしばしば話題に上るようになってきているが、軽症であり、合併症もまず考えられない病気なので、静かに動向を観察したい。

(8) 手足口病（図8、図14i）

最近のわが国では1-2年おきに手足口病の全国的な流行を見ている。その病原はコクサキA群16型ウイルスもしくは、エンテロウイルス71型であり、この二者が交互に流行する形である。定点観測が始まってから、53年7月に全国的な流行があり、都内でも大きな発生があったが、この時のウイルスはエンテロウイルス71型であった。54年には少数の発生をみているが、55年にはまた全国的な流行となり、定点からの報告数も1,448と、53年の2,180に次ぐ発生をみた。この55年の流行はコクサキA群16型ウイルスによるものであった。ちな

みに、コクサキ A 群 16 型ウイルスは流行により、ある程度の変異が見られており、またエンテロウイルス 71 型の場合には無菌性髄膜炎を伴うことがあるという点から関心を呼んでいる。この年齢分布は 3 年を通じてどの流行でも 1 - 2 才にピークを示している。

(9) 突発性発疹 (図 9、図 14e)

53 - 55 年の突発性発疹の発生は、他疾患と異なり、季節的な変動は全くなく、報告数も年間を通じて一定している。このような点は予想外のことであった。年齢別頻度も 2 才未満に集中 (特に 1 才未満) している点も変りはない。

(10) 溶連菌感染症 (図 10、図 14k)

本サーベイランス事業の当初は、溶連菌感染症は対象疾病には含めていなかった。しかし、一般からの要望も強く、その他の疾病としての報告も目立ち、他県のサーベイランスでは対象疾病にしているところも多いところから、54 年中途から対象としたものである。溶連菌感染症は種々の病像を示すので、報告されたものが、どんな病像であるのかは非常に興味のあるところである。55 年の報告数について、発疹の有無についてのまとめをみると、判明しているもの 617 名中 483 名、78.3% が発疹を伴うものであり、このことから大部分は、発疹を伴う溶連菌性アンギナを示すものと考えられよう。季節別には、8・9 月に少ない他は、年間を通じてみられる。年齢別には、4 - 5 才から小学校低学年に多い。

(11) 感冒性胃腸炎 (図 11、図 14g)

本疾患群にはロタウイルスによるもの、Norwalk 因子その他のウイルスによるものが含まれる。また、ウイルス胃腸炎として、年長児、成人に多い A 型胃腸炎 (流行性嘔吐下痢症)、や乳児冬期嘔吐下痢症 (白色便性下痢症など) を示す B 型とに大別することもある。これらの病原ウイルスの研究は、最近急速に進歩しつつあるところであり、臨床的には明確に区別し難いことも考慮して、大きくまとめた病名としてサーベイランスの対象としているものである。当初は嘔吐を主

徴とする感冒、下痢を主徴とする感冒とに分けたこともあったが、その後は両者をまとめて、胃腸炎症状を主徴とする感冒としたものである。しかし、このなかには、乳児冬期嘔吐下痢症、白痢、白色便性下痢症として比較的明確に区別しうるものも多いことは事実であり、季節的にも発生が集中する傾向もあり、定点の先生方のなかには、特にこのようなものを、別にその他の疾病として届けていただいている方も少なくないのである。このような状況では、本症の対象疾病としての取扱いも、変更して行くべきかも知れないし、ご意見をいただいて現状に合う形で見直す必要がある。

胃腸炎症状を主徴とする感冒の届出数は各疾患のなかではもっとも多く、毎年、約1万を数えている。その季節的な変動は、毎年同様のパターンを示し11-12月に急増し、4月以降に少なくなる傾向が明らかである。年令別の頻度は、比較的差異がみられていない。このことは、ロタウイルスによる乳児嘔吐下痢症以外の諸因子によるものが混在していることも理由として考えられようし、今後のサーベイランスの対象としては、もっと限定したものに限るべきということを指示するものかも知れない。

(12) 不明発疹症(図12、第13表)

当初より不明発疹症というものを設け、検査などを行って行きたいという希望であったが、まだ要望に答えられないでいる点は反省している。この届出数は毎年400~500例であり、季節的にも、年令別にも特別な傾向はないが、これは、諸種の因子によるものの混合したものということから理解されよう。現在これに対するウイルス学的検査を充分に行う方策を立てることは困難であるが、今後、少なくとも、その臨床的な内容についての調査を進めるべきであろう。

10. おわりに

3年間にわたる本事業のまとめを行ってみて、あらためて、各定点の先生方の熱心なご協力に頭の下がる思いである。毎週集計を担当していただいている都の担当者の方々にもお礼を上げたい。

昭和 56 年度から、国としてサーベイランス情報のまとめを行いたいということで、検討が進められているが、そのなかでは対象疾病として次のようなものがあげられている。

(1)麻疹様疾患 (2)風疹 (3)水痘 (4)流行性耳下腺炎 (5)百日咳様疾患 (6)溶連菌感染症 (7)異型肺炎 (8)乳児嘔吐下痢症 (9)その他の感染性下痢症 (10)手足口病 (11)伝染性紅斑 (12)突発性発疹 (13)ヘルパンギーナ (14)咽頭結膜熱 (15)流行性角膜炎 (16)急性出血性結膜炎 (17)髄膜炎 (18)脳・脊髄炎 次年度以降の追加計画、インフルエンザ様感冒、ウイルス性肝炎

定点としては各県当り約 40、この定点のなかには眼科を含め、また病院定点も設けて、とくに神経系感染症を中心とした情報収集、病原検査をすすめ、検査定点の運営によって情報に関するシステムも充実して行く姿勢を示している。

このような全国的な動きに応じて、都のサーベイランス事業も、新たな体制を考えなければならないであろうが、これまでの実績の上に立って、種々ご助言とともに、なお一層のご協力をお願い申し上げます。

月	週	月 日	麻疹	水痘	ムンプス	突発性発疹	風疹	百日咳	インフルエンザ	感冒性胃腸炎	不明発疹症	伝染性紅斑	溶連菌感染症	手足口病	その他	計	休診・未着	定点数
1	1	1.1 - 1.5	1	35	13	9	0	1	7	60	1	6	10	3	4	150	11	41
	2	1.6 - 1.12	1	67	25	23	0	6	46	229	4	19	13	16	31	480		区部25 三多摩14 病院2
	3	1.13 - 1.19	4	50	24	37	0	4	48	288	10	22	16	2	23	528		
	4	1.20 - 1.26	2	53	22	28	0	3	84	430	3	24	28	21	34	732		
	5	1.27 - 2.2	4	50	16	24	0	3	142	486	5	30	15	11	55	841		
2	6	2.3 - 2.9	4	66	19	26	0	0	436	501	15	17	25	4	22	1,135		
	7	2.10 - 2.16	1	55	17	32	2	11	516	532	6	18	25	9	26	1,250		
	8	2.17 - 2.23	2	56	22	24	0	2	743	526	22	18	12	5	26	1,458		
	9	2.24 - 3.1	5	60	23	24	0	0	978	557	3	18	15	5	29	1,717		
3	10	3.2 - 3.8	5	67	12	27	0	4	959	427	4	12	18	3	19	1,557	1	
	11	3.9 - 3.15	3	65	13	27	1	6	897	432	4	25	11	5	20	1,509		
	12	3.16 - 3.22	9	94	26	21	0	0	744	310	8	27	24	2	17	1,282	1	
	13	3.23 - 3.29	7	82	17	30	0	1	489	230	6	16	19	2	14	913		
4	14	3.30 - 4.5	7	70	22	38	0	1	258	199	13	22	7	2	12	651	1	
	15	4.6 - 4.12	4	78	20	33	5	3	180	153	16	17	4	1	24	538	2	
	16	4.13 - 4.19	9	44	17	33	1	5	125	152	13	29	13	3	11	455	1	
	17	4.20 - 4.26	12	51	13	34	1	6	109	169	9	31	6	9	14	464	1	
	18	4.27 - 5.3	12	51	18	25	0	2	50	132	13	17	6	5	26	357	1	
5	19	5.4 - 5.10	13	58	24	31	1	2	85	167	7	12	11	4	20	435	2未着1	
	20	5.11 - 5.17	14	87	21	51	9	9	36	159	9	28	17	6	37	483	1	
	21	5.18 - 5.24	16	64	25	41	2	3	55	157	7	17	14	16	56	473	1	
	22	5.25 - 5.31	19	87	16	49	14	3	43	151	6	27	9	27	118	569	1	
6	23	6.1 - 6.7	31	73	23	47	3	1	36	163	23	34	13	41	191	679	1	46
	24	6.8 - 6.14	17	80	25	45	5	1	28	141	8	35	13	65	315	778	1	区部30 三多摩14 病院2
	25	6.15 - 6.21	26	52	25	42	5	4	63	141	11	41	10	90	349	859	1	
	26	6.22 - 6.28	8	46	18	43	1	1	34	127	6	32	14	131	274	735	1	
27	6.29 - 7.5	14	57	19	49	1	4	44	122	10	33	11	95	221	680	1		
7	28	7.6 - 7.12	10	34	28	30	2	1	40	133	5	36	13	119	158	609	2	
	29	7.13 - 7.19	3	59	44	47	2	3	38	130	9	27	11	117	145	635	1	
	30	7.20 - 7.26	3	30	38	40	2	2	43	116	10	30	4	156	124	598	2	
	31	7.27 - 8.2	5	36	26	45	1	5	38	128	7	22	4	90	79	486	2	
	32	8.3 - 8.9	1	29	32	33	0	6	22	121	2	14	4	72	47	383	2	
8	33	8.10 - 8.16	2	12	16	13	0	1	8	71	7	12	1	40	28	211	12	
	34	8.17 - 8.23	9	22	29	43	3	5	17	90	8	9	5	26	59	325	8	
	35	8.24 - 8.30	6	16	22	50	0	2	10	97	7	14	5	49	37	315	4	
9	36	8.31 - 9.6	4	19	18	47	0	6	17	109	8	24	5	31	38	326	4	
	37	9.7 - 9.13	1	20	19	45	0	6	13	171	5	10	4	15	43	352	4	
	38	9.14 - 9.20	4	12	7	38	0	9	12	121	4	3	8	37	34	289	1	
	39	9.21 - 9.27	1	17	20	42	3	2	21	123	4	5	9	14	40	301	1	
10	40	9.28 - 10.4	4	18	14	42	0	6	16	128	7	9	11	22	43	320	1	
	41	10.5 - 10.11	2	35	15	50	2	3	27	150	10	6	9	7	27	343	1	
	42	10.12 - 10.18	3	30	20	44	0	6	25	172	6	9	8	18	23	364	1	
	43	10.19 - 10.25	2	25	17	35	2	6	23	188	16	14	14	13	27	382	1	
	44	10.26 - 11.1	1	32	17	40	1	2	38	297	4	18	13	8	26	497	1	
11	45	11.2 - 11.8	3	43	21	31	3	2	47	328	6	15	11	5	12	527		
	46	11.9 - 11.15	4	38	19	29	0	2	59	566	6	11	14	6	16	770	未着1	
	47	11.16 - 11.22	3	66	32	34	0	3	40	675	3	15	17	4	23	915		
	48	11.23 - 11.29	3	95	17	44	0	1	32	529	4	20	11	4	22	782		
12	49	11.30 - 12.6	2	114	30	38	1	0	32	444	9	33	16	2	18	739		
	50	12.7 - 12.13	7	115	30	27	0	1	41	494	8	35	15	3	10	786		
	51	12.14 - 12.20	3	131	28	38	0	1	31	461	5	53	10	2	16	779		
	52.3	12.21 - 12.31	7	196	41	43	3	3	49	548	2	49	23	5	20	989	1	
計			343	2,942	1,135	1,861	76	170	7,974	13,531	404	1,120	624	1,448	3,103	34,731		
昭和54年計 1.1-12.31			957	4,332	3,753	1,812	46	298	4,189	10,698	563	436	768	862	2,570	31,284		40→41
昭和53年計 1.1-12.31			2,299	2,966	1,580	1,671	-	203	10,023	8,930	484	192	-	2,180	1,854	32,170		43 実質的には 41→39

第3表 その他欄の内訳、流行または多発の報告

週	ヘルパンギナ	ヘルペス口内炎	ヘルペス口内炎	アフタ性口内炎	口内炎を伴う感冒	咽頭結核熱	マイコプラズマ肺炎	異型肺炎	白色痢症	冬期下痢嘔吐症	ロタウイルス下痢性	MCLS川崎病	肺炎	その他	流行または多発の報告
1		1					1		1			1			⑦水痘多発
2						2	3	8	14				3	結膜炎を伴う感冒1	③保育園水痘
3	2	2					1	4	14						⑫インフル ⑪ 伝紅
4							1		17		15	1			⑫感冒 ⑬⑭⑮ インフル ⑯マイコ 105 伝紅
5	2	2	1				2	3	19		25	1			⑦冬期下痢症 ⑨学童感冒性胃腸炎 ⑫⑬インフル
6	2						1		18				1		⑦⑧⑨ インフル ⑯小学校麻疹
7		3							21					結膜炎を伴う感冒1, プ菌発疹1	⑨⑩インフル⑪⑫感冒性胃腸炎 ⑬溶連菌症
8						1	1		9	13			1	猩紅熱1	⑨⑩⑪ インフル
9							2		11	15				インフル様1	⑦⑧⑨ インフル
10	2						1	3	4	6		1	2		⑩インフル峠をこす ⑪⑫ インフル⑬水痘⑭⑮伝紅
11	1	2			1			1	4	10			1		
12	1						5	2	4	5					⑦インフル下降 ⑨⑩⑪ 水痘
13	3	1			1	2	1	2		4					③冬期下痢症下降 ⑪⑫ インフル下降
14	2	2				2	1	4					1		⑪ 成人インフル様
15	7	1			1	6	3	3	2			1			⑦成人インフル様
16	3					4	1					2		猩紅熱1	⑯HFMD ⑰⑱伝紅
17	5			3		1	2					2		感冒性発疹1	⑩⑪ インフル様 ⑫ アンギナ
18	10	2	2	1			7	2				2			③水痘 ⑦ヘルパンギナ ⑨感冒様
19	12	2				5						1			⑪ 感冒性胃腸炎
20	27	1				2	1	3					2		⑦保育園水痘 ⑭⑮ 風疹学校閉鎖
21	50	2				2	2								①夏かせ ⑨結膜炎を伴う感冒 ⑯水痘
22	110				1	1	3	1				1		猩紅熱1	⑭⑮ 風疹その後も続く ①夏かせ ⑳水痘
23	186						5								⑩⑪ ヘルパンギナ ⑫⑬ 夏かせ
24	308					1	3	3							⑳ヘルパンギナ
25	343	4						1				1			⑭⑮ 風疹なお散発⑯HFMD⑳⑪ ヘルパンギナ⑫⑬感冒
26	269	1					3	1							⑳ヘルパンギナ ⑫⑬ 夏かせ
27	211					4		4	1					膿痂疹1	⑯プール熱(中野区内私立プール)
28	140					3	6	9							⑳HFMD
29	135						2	2				3		SSSS1, 流角結膜炎2	
30	112					9	5								⑫HFMD ⑯ムンプス, ヘルパンギナ
31	64		2			6	6							SSSS1,	⑳伝紅, HFMD下降
32	32				6		8							膿痂疹1	
33	21				1	2	4								
34	45	1			1	2	4	4				1		帯状疱疹1	
35	31					1	1	3						膿痂疹1	④保育園麻疹
36	24				2		7	2				2		猩紅熱1	
37	18	1			2		9	9						膿痂疹2, 猩紅熱2	⑦夏かせ ⑨⑩⑪ マイコ ⑫⑬ HFMD, 水痘
38	21				5	1	3	2					1	猩紅熱1	狛江市保育園風疹
39	28	1			1	1	5	2				1		単純ヘルペス1	⑯成人発熱下痢嘔吐
40	19	1					9	4				1		喘息性気管支炎1, AHC1	①喘息様気管支炎
41	19		1				7								⑦インフル様
42	14	1			1		4	3							⑨幼, 学童下痢嘔吐を伴うかせ
43	17				2		3	4				1			
44	13						9	4							⑨百日咳 ⑫流行性嘔吐下痢症
45	7				2		1							猩紅熱1	⑫⑬ 保育園水痘 ⑭⑮ 感染性喘息
46	4						4	4	2					単純ヘルペス1	⑫⑬ 保育園水痘, ムンプス, HFMD
47	6		2	1	5	1	1	4				1		SSSS1, ヘルペス1	③⑦⑩⑪ 年長児下痢嘔吐腹痛
48	3		2	4	2	3	3	4	1					猩紅熱1	⑦下痢嘔吐を伴うかせ
49		1			3	1	3	5	4						⑯伝紅, HFMD
50	3						1	2	3						
51	5						4	4				1		SSSS1, ヘルペス1	③年長児腹痛嘔吐 ⑦⑧異型肺炎 ⑩学童伝紅
52.3	3	1					10	2	4						③麻疹
計	2,340	33	13	37	65	169	114	160	54	40	25	12			

第4表 昭和55年東京都定点観測、疾病別、月別報告数

月	期 間 ()内、週	麻 疹	水 痘	ム ン プ ス	突 発 性 発 疹	風 疹	百 日 咳	イン フル エン ザ	感 冒 性 胃 腸 炎	不 明 発 疹 症	伝 染 性 紅 斑	溶 連 菌 感 染 症	手 足 口 病	そ の 他	その他の疾病の重なもの										計
															ヘル ギ バ ン	口 内 炎	咽 頭 結 膜 熱	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	異 型 肺 炎	白 色 下 痢 症	冬 下 痢 症	ル ロ ス タ ウ イ チ	M C L S		
1	1.1 (1) 2.2 (5)	12	255	100	121	0	17	327	1,493	23	101	82	53	147	4	6	2	8	15	65	0	40	3	2,731	
2	2.3 (6) 3.1 (9)	12	237	81	106	2	13	2,673	2,116	46	71	77	23	103	2	3	1	4	0	59	28	0	1	5,560	
3	3.2 (10) 3.29(13)	24	308	68	105	1	11	3,089	1,399	22	80	72	12	70	7	5	2	7	8	12	25	0	0	5,261	
4	3.30(14) 5.3 (18)	44	294	90	163	7	17	722	805	64	116	36	20	87	27	12	13	14	9	2	0	0	7	2,465	
5	5.4 (19) 5.31(22)	62	296	86	172	26	17	219	634	29	84	51	53	231	199	6	10	6	4	0	0	0	2	1,960	
6	6.1 (23) 6.28(26)	82	251	91	177	14	7	161	572	48	142	50	327	1,129	1,106	5	1	11	5	0	0	0	1	3,051	
7	6.29(27) 8.2 (31)	35	216	155	211	8	15	203	629	41	148	43	577	727	662	2	22	19	15	1	0	0	3	3,008	
8	8.3 (32) 8.30(35)	18	79	99	139	3	14	57	379	24	49	15	187	171	129	10	4	17	7	0	0	0	1	1,234	
9	8.31(36) 9.27(39)	10	68	64	172	3	23	63	524	21	42	26	97	155	91	12	2	24	15	0	0	0	3	1,268	
10	9.28(40) 11.1 (44)	12	140	83	211	5	23	129	935	43	56	55	68	146	82	6	0	32	15	0	0	0	2	1,909	
11	11.2 (45) 11.29(48)	13	242	89	138	3	8	178	2,098	19	61	53	19	73	20	11	7	9	8	10	1	0	1	2,994	
12	11.30(49) 12.31(53)	19	556	129	146	4	5	153	1,947	24	170	64	12	64	11	5	1	18	13	11	0	0	1	3,293	
計		343	2,942	1,135	1,861	76	170	7,974	13,531	404	1,120	624	1,448	3,103	2,340	83	65	169	114	160	54	40	25	34,731	

第5表 昭和55年伝染病週別発生状況

月	週	期 間	赤痢	腸チフス	パラチフス	しょう紅熱	ジフテリア	流 脳	日本脳炎	急性灰白髄炎	コレラ	計	備 考	
1	1	1.1 ~												
	2	1.12	3	1		24						28		
	3	1.13 - 1.19	5			28						33		
	4	1.20 - 1.26	7	3		25	1					36		
	5	1.27 - 2.2	6			17					1*	24	*保菌者	
2	6	2.3 - 2.9	4			20						24		
	7	2.10 - 2.16	5			21	1					27		
	8	2.17 - 2.23	3			12						15		
	9	2.24 - 3.1	3			13					1*	17	*患者(世田谷)	
3	10	3.2 - 3.8	3			13					1*	17	*患者(診定地文京区)	
	11	3.9 - 3.15	4			26						30		
	12	3.16 - 3.22	4			11						15		
	13	3.23 - 3.29	9		1	20						30		
4	14	3.30 - 4.5	15		1	19						35		
	15	4.6 - 4.12	9			7						16		
	16	4.13 - 4.19	10		1	5	1					17		
	17	4.20 - 4.26	9	2		10						21		
	18	4.27 - 5.3	4		1	8						13		
5	19	5.4 - 5.10	9	3	1	12						25		
	20	5.11 - 5.17	5			5						10		
	21	5.18 - 5.24	8		1	6						15		
	22	5.25 - 5.31	1	1	1	14						17		
6	23	6.1 - 6.7	7			15						22		
	24	6.8 - 6.14	3			16						19		
	25	6.15 - 6.21	6			16	1					23		
	26	6.22 - 6.28	5			13						18		
	27	6.29 - 7.5	7	2	2	9	1					21		
7	28	7.6 - 7.12	6	1		5						12		
	29	7.13 - 7.19	6			11						17		
	30	7.20 - 7.26	5	3		15						23		
	31	7.27 ~												
8	32	8.9	10	4		4						18		
	33	8.10 - 8.16	8	2	2	3						15		
	34	8.17 - 8.23	11			2						13		
	35	8.24 - 8.30	5			3			1**	1*	10	*患者(八王子)**疑似(府中)→ウイルス髄膜炎に病変		
9	36	8.31 - 9.6	8	1		5						14		
	37	9.7 - 9.13	9		1	3						13		
	38	9.14 ~												
	39	9.27	16	1	3	4					4*	28	*患者(文京2, 北1, 中野1)	
10	40	9.28 - 10.4	9		1	7					2*	19	*保菌者(文京)	
	41	10.5 - 10.11	3	1		2	1					7		
	42	10.12 - 10.18	3	3	1	8						15		
	43	10.19 - 10.25	2	3	1	3						9		
	44	10.26 - 11.1	1			6						7		
11	45	11.2 - 11.8	2		1	16						19		
	46	11.9 - 11.15	8		2	9	1				1*	21	*保菌者(世田谷)	
	47	11.16 - 11.22	2			15						17		
	48	11.23 - 11.29	2			21					1*	24	*コレラ疑(八丈町食中毒病変)	
12	49	11.30 - 12.6	5		1	17	1					24		
	50	12.7 - 12.13	6			17	1					24		
	51	12.14 - 12.20	9			15						24		
	52	12.21 - 12.28	8		1	11						20		
計			298	31	23	587	4	5	1疑	0	12*	961	*患者7, 保菌者4, 疑1	
昭和54年計			373	44	30	1,124	6	1	1疑	0	4	1,583	*患者2, 保菌者2	

第6表 昭和55年伝染病月別発生状況

月	期 間 () 週	赤 痢	腸 チ フ ス	パ ラ チ フ ス	し ょ う 紅 熱	ジ フ テ リ ア	流 脳	日 本 脳 炎	急 性 灰 白 髄 炎	コ レ ラ	計	備 考
1	1.1 (1) 2.2 (5)	21	4		94	1				1*	121	* 保菌者 1
2	2.3 (6) 3.1 (9)	15			66		1			1*	83	* 患者 (世田谷)
3	3.2 (10) 3.29 (13)	20		1	70					1*	92	* 患者 (診定地文京区)
4	3.30 (14) 5.3 (18)	47	2	3	49		1				102	
5	5.4 (19) 5.31 (22)	23	4	3	37						67	
6	6.1 (23) 6.28 (26)	21			60	1					82	
7	6.29 (27) 7.26 (30)	24	6	2	40		1				73	
8	7.27 (31) 8.30 (35)	34	6	2	12			1**		1*	56	* 患者 (八王子) ** 日脳疑似→ウイルス髄膜炎に病変
9	8.31 (36) 9.27 (39)	33	2	4	12					4*	55	* 患者 (文京2, 北1, 中野1)
10	9.28 (40) 11.1 (44)	18	7	3	26	1				2*	57	* 保菌者 2
11	11.2 (45) 11.29 (48)	14		3	61	1				2*	81	* 保菌者 1, 疑 1 (食中毒病変)
12	11.30 (49) 12.31 (53)	28		2	60		2				92	
計		298	31	23	587	4	5	1 疑	0	12*	961	* 患者 7, 保菌者 4, 疑 1

第7表 都立病院小児科感染症病室(棟)の入院状況

期間 昭和55年
 病院名 都立荏原病院

病名別	月別												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
麻疹(肺炎・脳炎を含む)	1	2	1	1	2	3	1			1	1		13
水痘(脳炎を含む)		3	1	2		1	1				1	1	10
ムンプス(脳炎・髄膜炎・睾丸炎を含む)					1	2	1	1	1		1		7
突発性発疹症													
風疹													
伝染性紅斑													
百日咳(肺炎を含む)	2	3		2		3	2	1	4	5	1	2	25
大腸炎(サルモネラ・病大・キャンピロ その他)	2 (内1名K ₀ oxytoca)	2 (〃)	5 (〃2)	1	4	2	5	10	7		7	キャンピロ1 クレブジエラ1 オキシトカ6	51
溶連菌感染症			1	1									2
発疹性疾患(薬疹・多型滲出性紅斑) ウイルス性発疹を含む)	1		1			1	1		2	1			7
細菌性発疹症(S.S.S.S)				1							2		3
川崎病(MCLS)	4		1	2	1	2	1	1	1	1	4	1	19
マイコプラズマ肺炎	11	5	7	9	5	6	6	9	5	10	9	10	92
無菌性髄膜炎(脳炎を含む)	1						2						3
急性肝炎		1	1										2
気管支肺炎	2	1	5	2	4	1	2		1				18
その他	4	10	5	9	8	3		1	(不明熱等) 7	2	6	5	60
計	28	27	28	30	25	24	22	23	28	20	32	25	312

第8表 都立病院小児科感染症病室(棟)の入院状況

期間 昭和55年
 病院名 都立墨東病院

病名別	月別												計
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
麻疹(肺炎・脳炎を含む)					1	1	2				4		8
水痘(脳炎を含む)		2	1 (生後21日発生)		2	1	2		1			1	10
ムンプス(脳炎・髄膜炎・睾丸炎を含む)													
突発性発疹症													
風疹													
伝染性紅斑													
百日咳(肺炎を含む)		1			1				1				3
大腸炎(サルモネラ・病大・キャンピロ) その他)													
溶連菌感染症													
発疹性疾患(薬疹・多型滲出性紅斑) ウイルス性発疹を含む)													
細菌性発疹症(S.S.S.S)													
川崎病(MCLS)	5	3		1	2	4	3	2	1	1	1	2	25
マイコプラズマ肺炎	5	2	1	3	10	5	7	6	1	5	2	1	48
無菌性髄膜炎(脳炎を含む)	1				1			6	2	1		1	12
急性肝炎													
気管支肺炎													
その他													
計	11	8	2	4	17	11	14	14	6	7	7	5	106
(入院総数)	52	71	64	60	64	67	68	65	60	59	54	59	743

第9表 定点観測数からの都内発生数の推計

a 1才当り小児人口

	人口, 54. 1. 1 付	1才当り平均(A)	(A) の90%	(A) の80%
0-14才人口	2,489,179	165,945	149,350	132,756
0-6才人口	1,159,712	165,673	149,106	132,538

b 定点よりの水痘報告数 一年平均 3,413 (下段d参照)

c 水痘報告数の1才当り小児人口に対する比率

	90%の場合の比率	80%の場合の比率
0-14才人口	$\frac{3,413}{149,350} = 2.28\%, 1:43.8$	$\frac{3,413}{132,756} = 2.57\%, 1:38.9$
0-6才人口	$\frac{3,413}{149,106} = 2.29\%, 1:43.7$	$\frac{3,413}{132,538} = 2.58\%, 1:38.8$

d 年度別, 疾患別, 報告数, 及び水痘年平均報告数に対する比率

疾 病 名	麻 疹	水 痘	ム ンプ ス	突 発 性 発 疹	百 日 咳	インフルエンザ	感 冒 性 胃 腸 炎	伝 染 性 紅 斑	風 疹	溶 連 菌 感 染 症	手 足 口 病	報 告 数 総 計	
定点から の報告数	53年	2,299	2,966	1,580	1,671	203	10,023	8,930	192	—	—	2,180	32,170
	54年	957	4,332	3,753	1,812	298	4,189	10,698	436	46	768	862	31,284
	55年	343	2,942	1,135	1,861	170	7,974	13,531	1,120	76	624	1,448	34,731
	計	3,955	10,240	6,468	5,344	671	22,186	33,159	1,748	122	1,392	4,490	98,185
1年平均	1,200	3,413	2,156	1,781	224	7,395	11,053	583	61	696	1,497	32,728	
55年度推定発生数*	13,720	117,680	45,400	74,440	6,800	31,896	54,124	23,320	2,440	27,840	59,880	1,309,120	
水痘**に 対する 比率(%)	53年	67.4	86.9	46.3	49.0	5.9	293.7	261.6	5.6	—	—	63.9	94.26
	54年	28.0	126.9	110.0	53.1	8.7	122.7	313.4	12.8	1.3	22.5	25.3	91.66
	55年	10.0	85.3	33.3	54.5	5.0	234.1	396.5	32.8	2.2	18.3	42.4	101.76
	1年平均	35.1	100	63.2	52.2	6.6	216.7	323.8	17.1	1.8	20.4	43.9	95.89

* 55年度報告数×40 **=3,413を100とする

第10表 感染症定点観測ブロック別集計表

第1～53週

調査期間 昭和55年1月1日～12月31日

ブ ロ ッ ク 別	疾 病 定 点 数	麻 疹	水 痘	ム ン プ ス	突 発 性 発 疹	百 日 咳	イン フル エン ザ 様 疾 患	胃 腸 症 状 が 主 徴	感 冒 様 疾 患	不 明 発 疹 症	伝 染 性 紅 斑	風 疹	溶 連 菌 感 染 症	手 足 口 病	そ の 他	計
中 央	4 6 (医院)	38	241	76	203	8	198	542	38	89	3	127	187	353	2,103	
江 東	7 8 (")	103	458	284	431	13	1,415	2,055	46	145	12	87	296	709	6,054	
城 西	9 (")	46	464	174	354	21	981	3,318	110	240	6	91	241	457	6,503	
城 南	2 3 (")	9	96	50	27	0	55	1,087	6	79	2	31	75	11	1,528	
城 北	3 4 (")	5	129	19	22	6	406	448	40	11	6	12	54	49	1,207	
三多摩	14 (")	113	1,453	444	717	79	4,840	5,829	104	511	47	241	548	1,444	16,374	
中 央	2 (病院)	29	101	88	107	43	79	252	56	45	—	35	47	80	962	
区 部 計		230	1,489	691	1,144	91	3,134	7,702	296	609	29	383	900	1,659	18,357	
市 郡 部 計		113	1,453	444	717	79	4,840	5,829	108	511	47	241	548	1,444	16,374	
総 計		343	2,942	1,135	1,861	170	7,974	13,531	404	1,120	76	624	1,448	3,103	34,731	

定点数は6月1日(第23週)よりそれぞれ増加

第11表 昭和55年ブロック別，1定点当り年間報告書

ブ ロ ッ ク 別	疾 病 名 平 均 報 告 定 点 数	麻	水	ム	突	百	ザ	胃	不	伝	風	溶	手	そ	計
		疹	痘	ン プ ス	発 性 発 疹	日 咳	イ ン フ ル エ ン 疾 患	腸 症 状 が 主 徴	明 発 疹 症	染 性 紅 斑	疹	連 菌 感 染 症	足 口 病	の 他	
中 央	5.1	7.4	47.3	14.9	39.8	1.6	38.8	106.3	7.5	17.5	0.6	24.9	36.7	69.2	412.4
江 東	6.9	14.9	66.4	41.2	62.5	1.9	205.1	297.8	6.7	21.0	1.7	12.6	42.9	102.8	877.4
城 西	8.6	5.3	53.9	20.2	41.2	2.4	114.1	385.8	12.8	27.9	0.7	10.6	28.0	53.1	756.2
城 南	2.5	3.6	38.4	20.0	10.8	0	22.0	434.8	2.4	31.6	0.8	12.4	30.0	4.4	611.2
城 北	3.5	1.4	36.9	5.4	6.3	1.7	116.0	128.0	11.4	3.1	1.7	3.4	15.4	14.0	344.9
三 多 摩	13.9	8.1	104.5	31.9	51.6	5.7	348.2	419.4	7.5	36.8	3.4	17.3	39.4	103.9	1,178.0
中央(病院)	1.9	15.3	53.2	46.3	56.3	22.6	41.6	132.6	29.5	23.7	0	18.4	24.7	42.1	506.3
区 部	28.3	8.1	52.6	24.4	40.4	3.2	110.7	272.2	10.5	21.5	1.0	13.5	31.8	58.6	648.7
市 郡 部	13.9	8.1	104.5	31.9	51.6	5.7	348.2	419.4	7.5	36.8	3.4	17.3	39.4	103.9	1,178.0
55年 総計	42.3	8.1	69.6	26.8	44.0	4.0	188.5	319.9	9.6	26.5	1.8	14.8	34.2	73.4	821.1
54年 総計	39.7	24.1	109.1	94.5	45.6	7.5	105.5	269.5	14.2	11.0	1.2	19.3	21.7	64.7	788.0
53年 総計	36.8	62.5	80.6	42.9	45.4	5.5	272.4	242.7	13.2	5.2	—	—	59.2	50.4	874.2
53—55年 平 均	39.6	30.3	86.2	54.4	45.0	5.7	186.7	279.1	12.2	14.7	1.5	17.6	37.8	63.4	826.4

第12表 ブロック別、23区別、1才当り小児人口と定点数

ブロック	23区 1才当り人口	定点数	ブロック別 1才当り人口	定点数	53-55年平均 水痘報告数
中央	千代田 725 中央 1,179 港 2,372 文京 2,453 台東 2,299	1 1 2 1 1	9,028 (1 定点当り) 1,504	6	213
江東	墨田 3,214 江東 5,319 荒川 2,508 足立 10,465 葛飾 6,244 江戸川 8,108	2 1 2 1 1 1	35,858 (1 定点当り) 4,482	8	568
城西	新宿 3,843 目黒 3,261 渋谷 2,633 世田谷 10,133 中野 4,086 杉並 6,537	2 1 2 2 1 1	30,493 (1 定点当り) 3,388	9	584
城南	品川 4,145 大田 8,904	1 2	13,049 (4,349)	3	81
城北	北 5,296 豊島 3,242 練馬 8,327 板橋 7,028	1 1 1 1	23,893 (5,973)	4	120
中央(病院)	千代田 港	— 2	—	2	100
三多摩	市郡部 53,128	14	(3,794)	14	1,651

小児人口は 54.1.1 付 0 - 14 才人口より計算した

图1. 麻疹

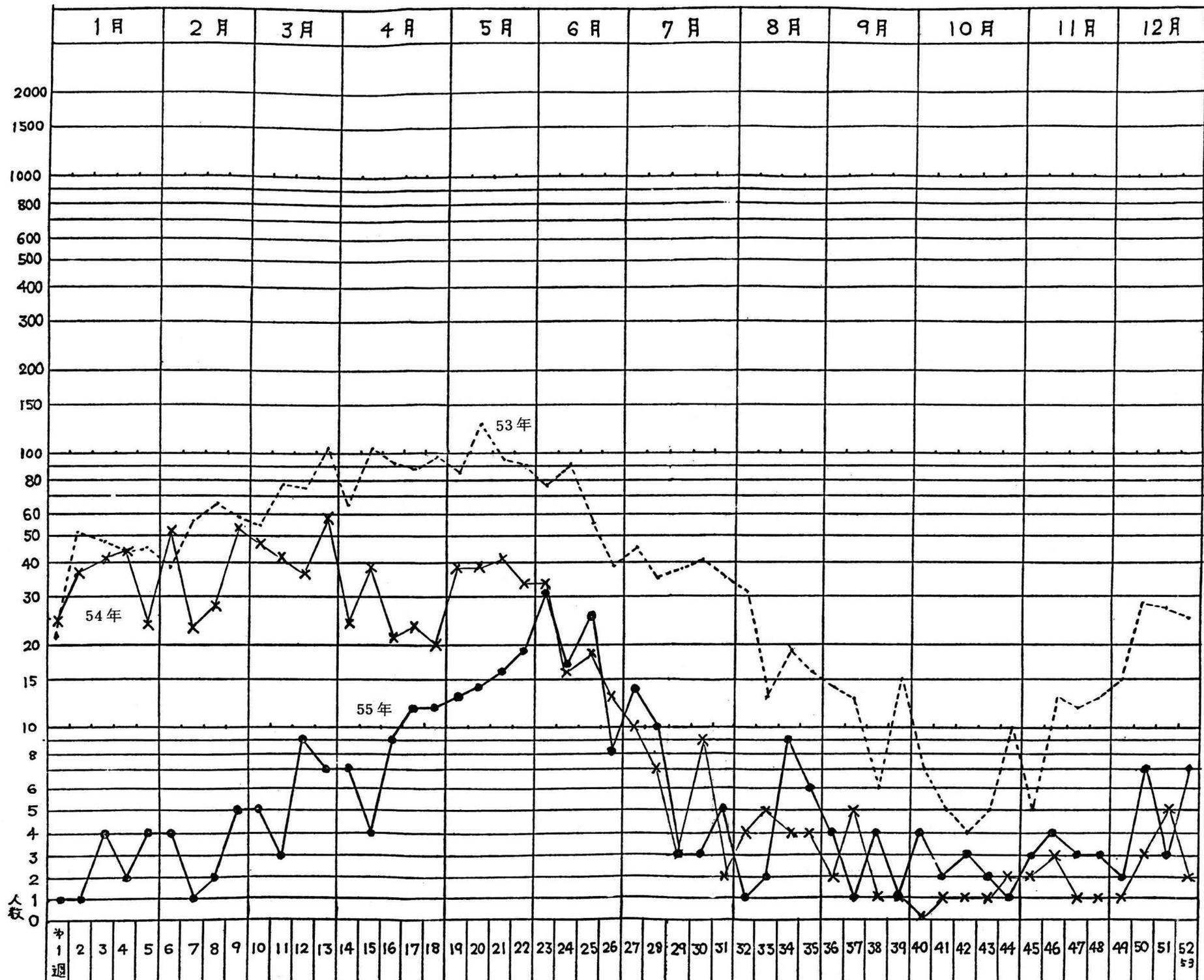


图2. 水痘

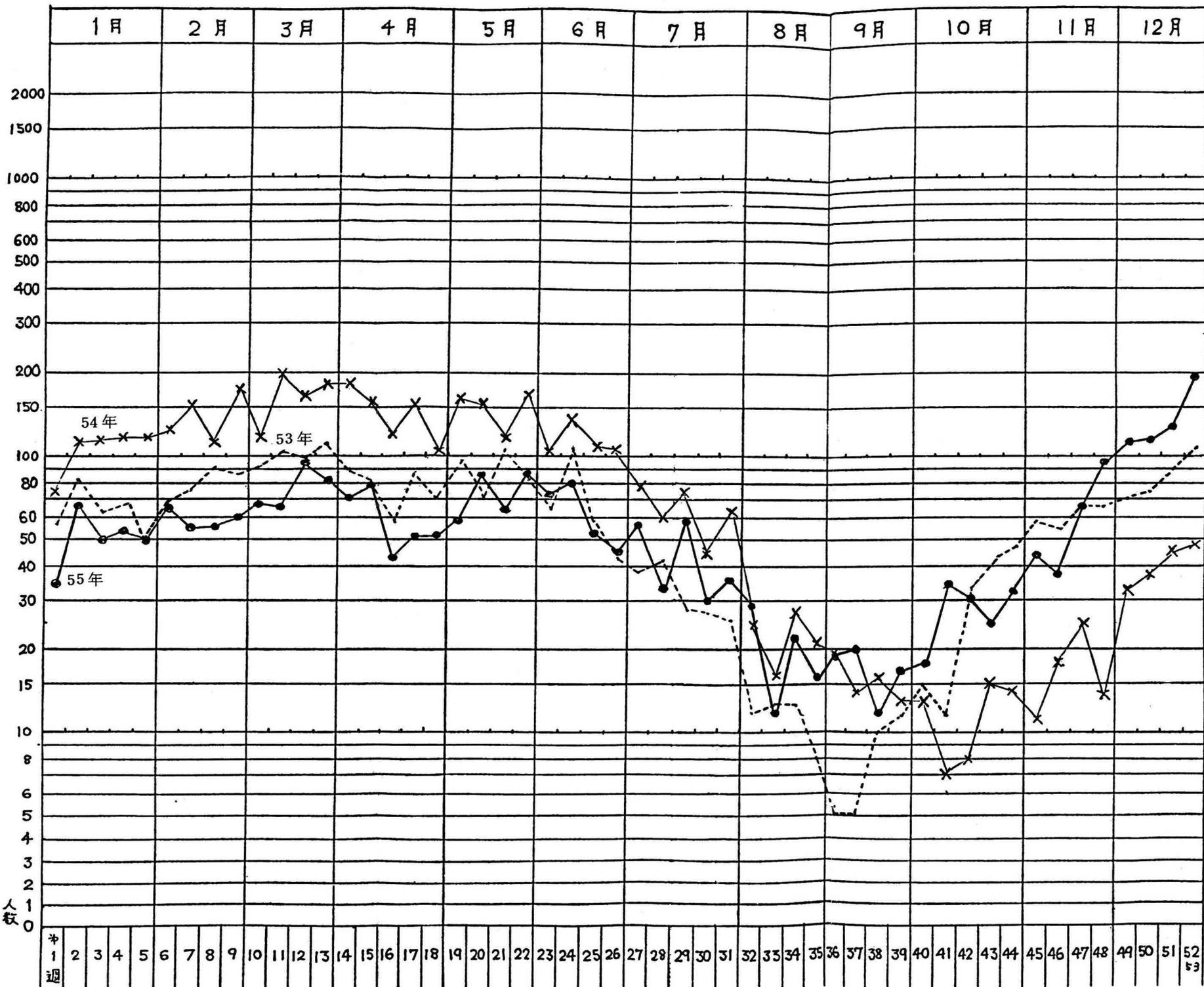


图 4. 百日咳

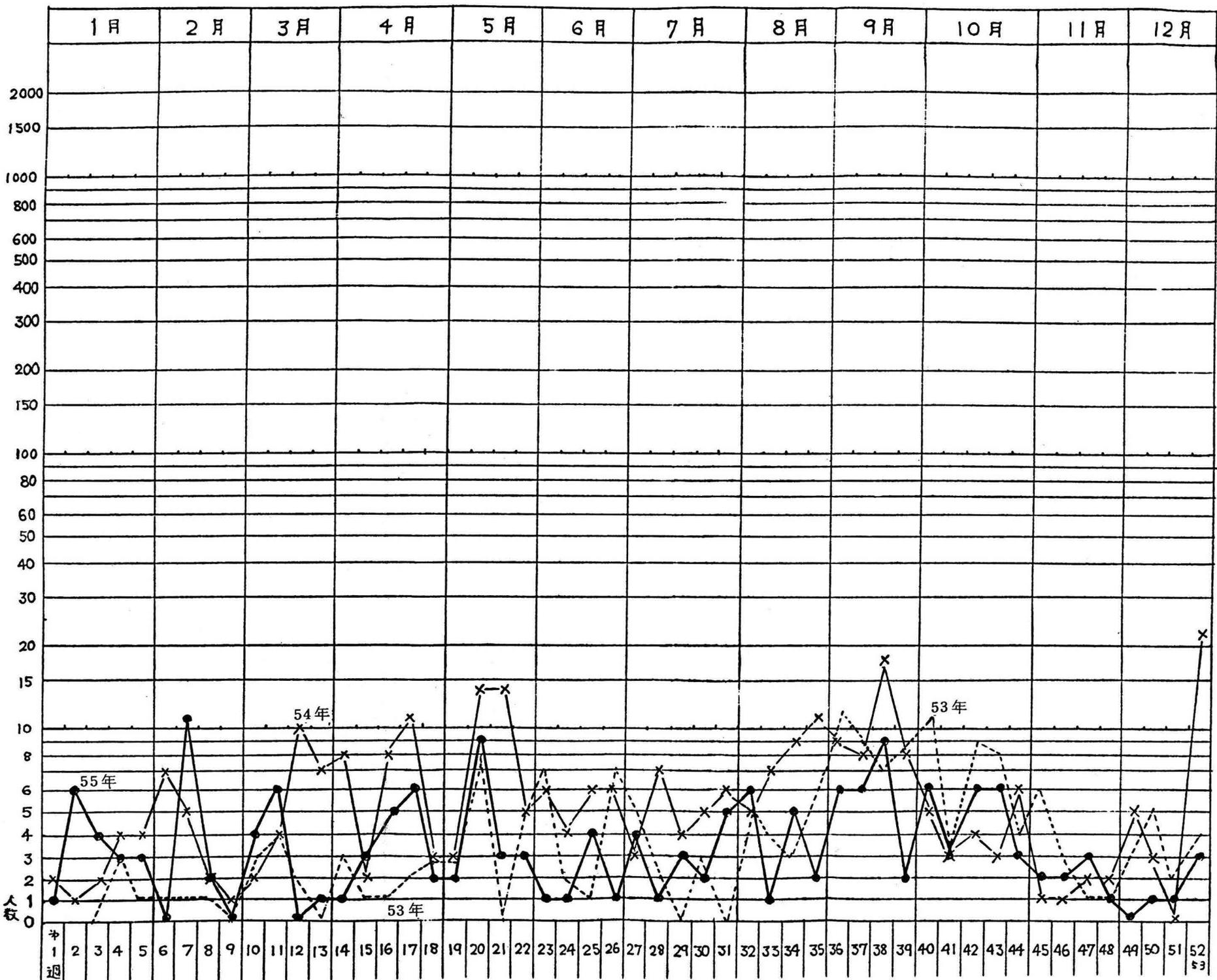


図5. インフルエンザ

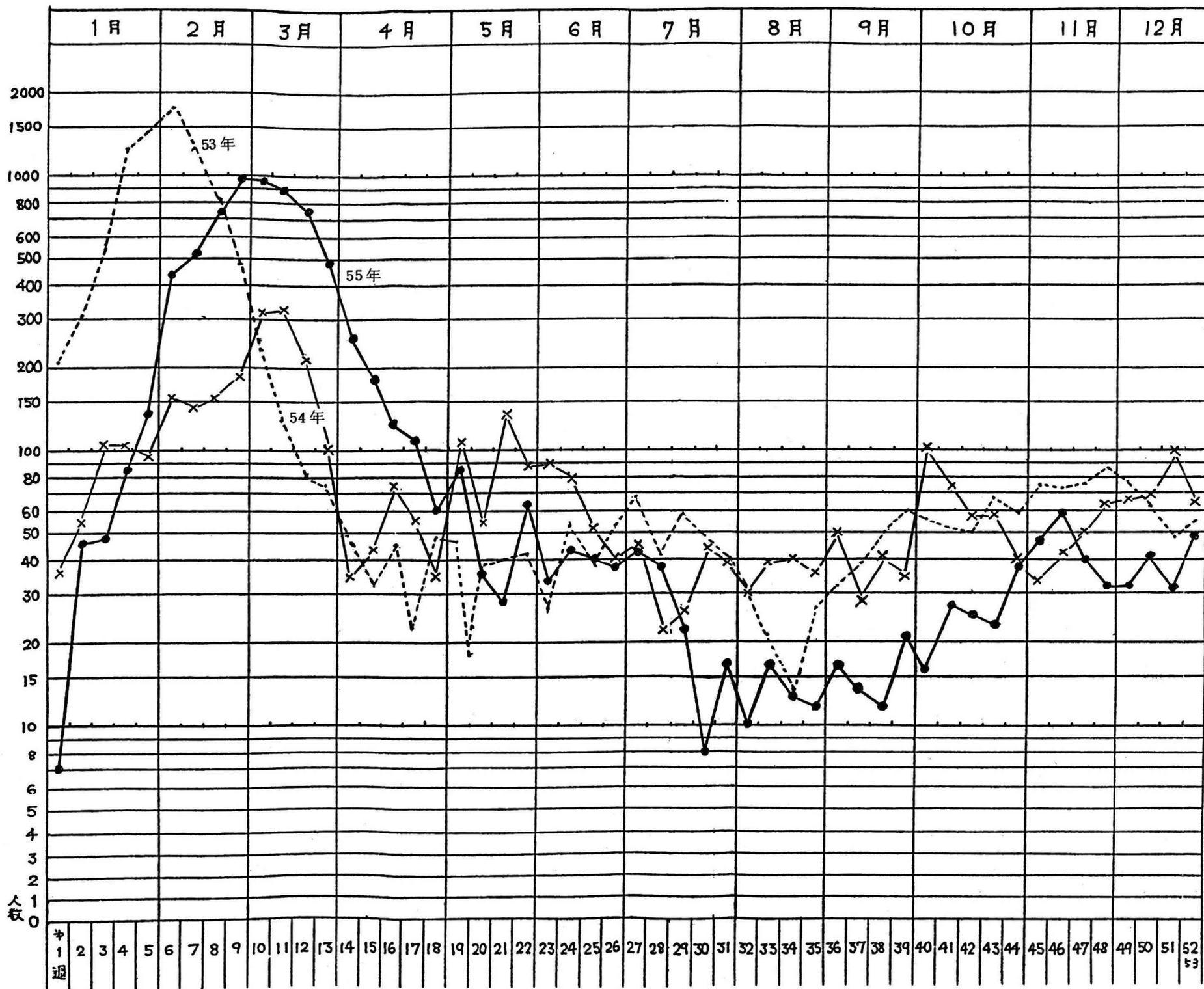


图6. 風疹

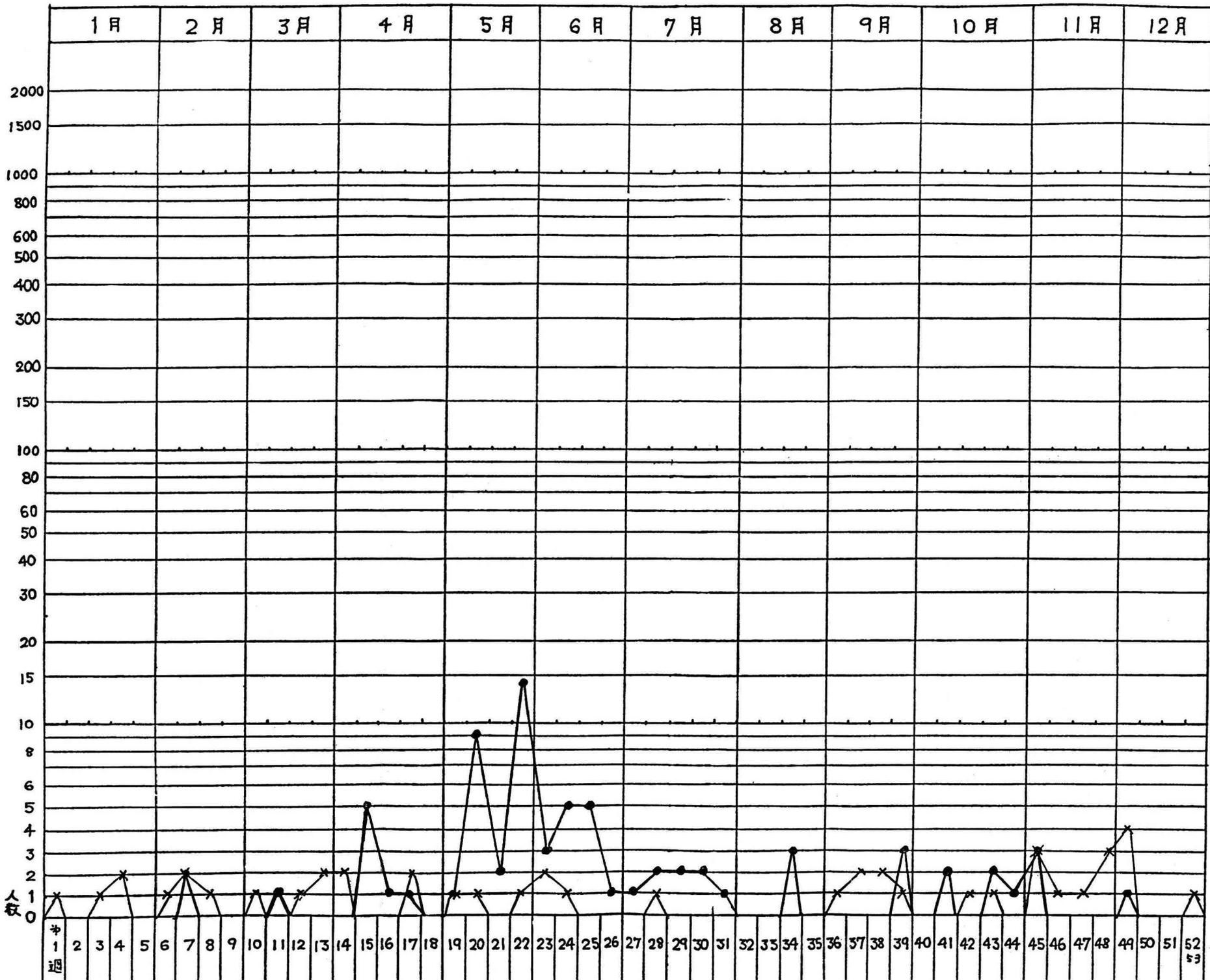


图7. 伝染性紅斑

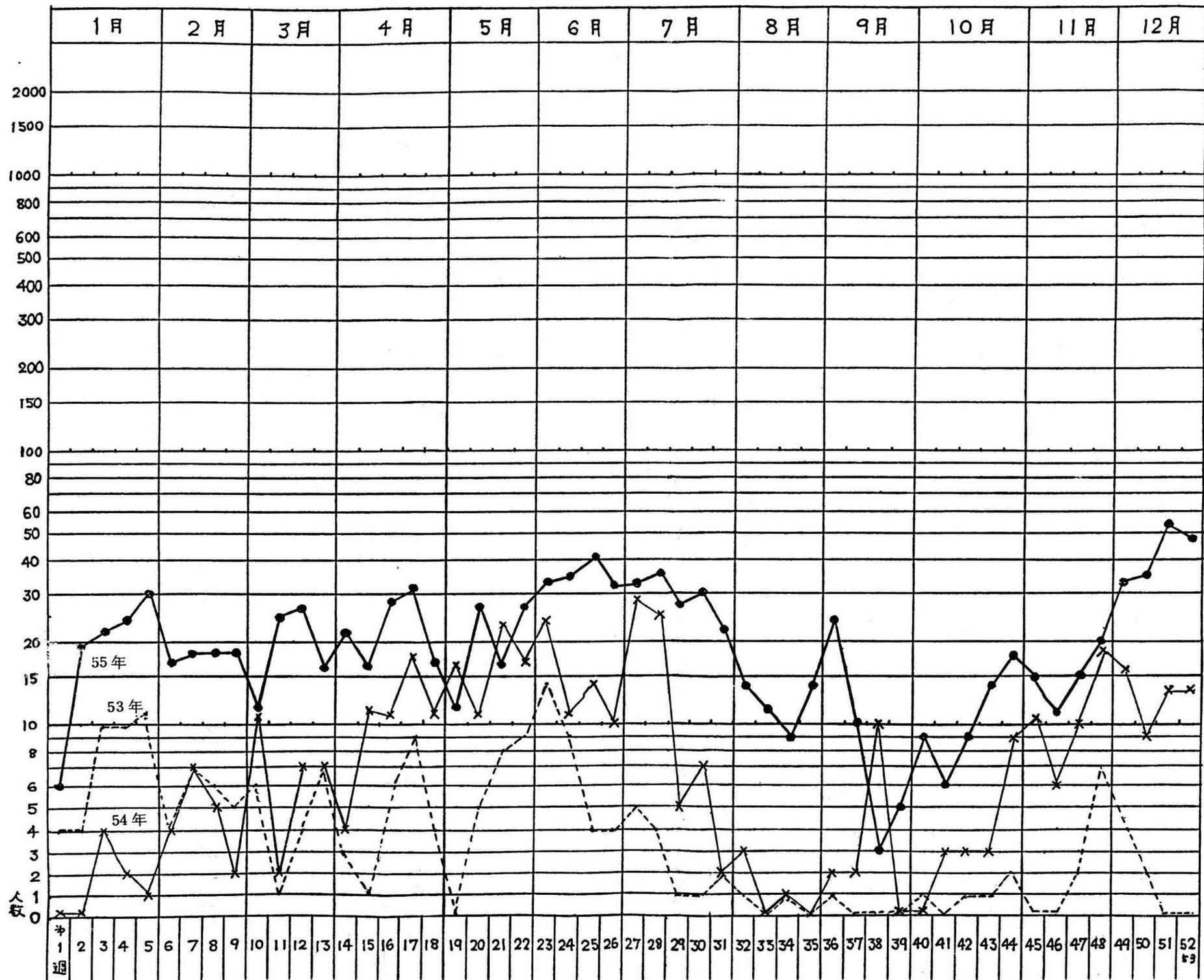


图8. 手足口病

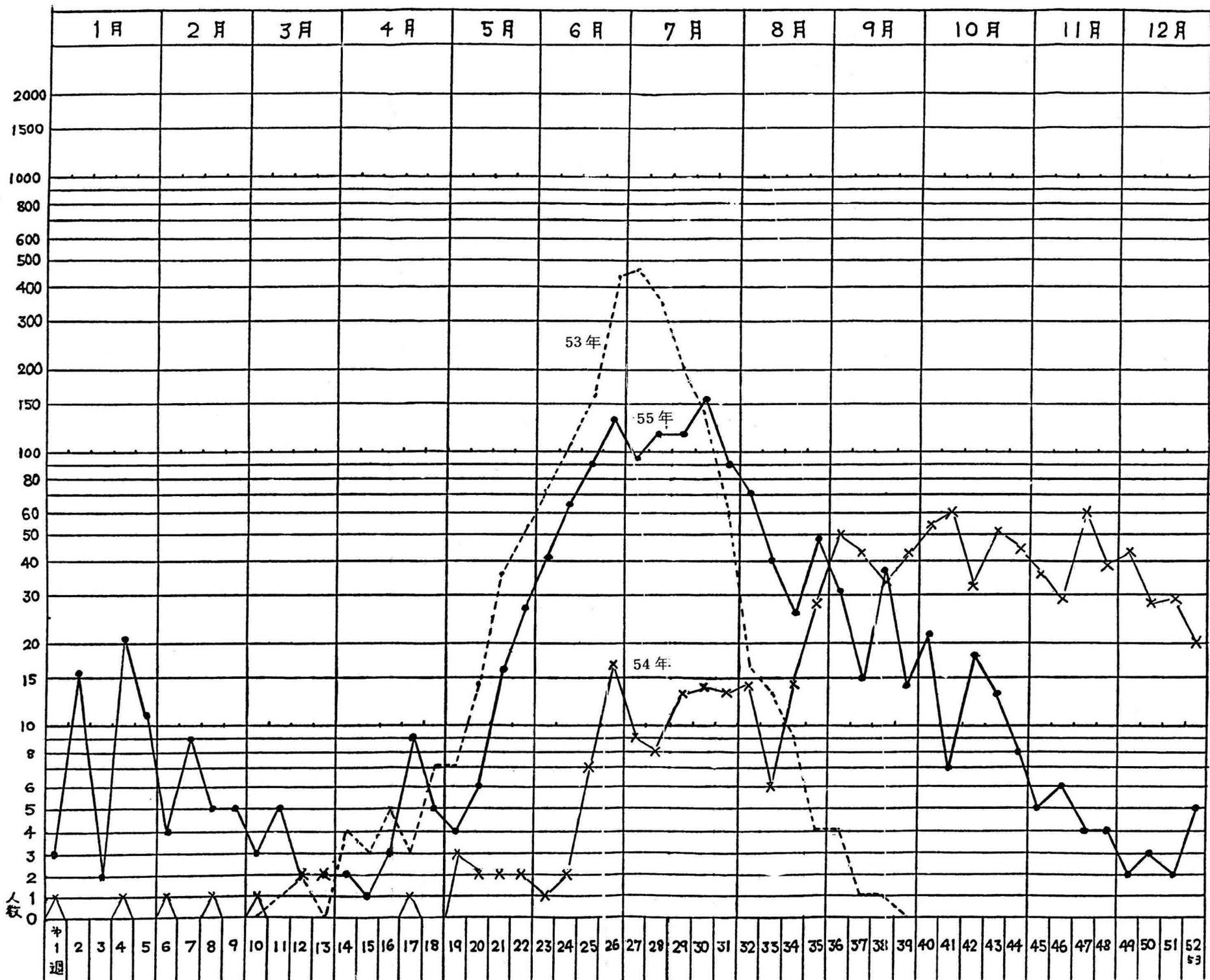


図9. 突発性発疹

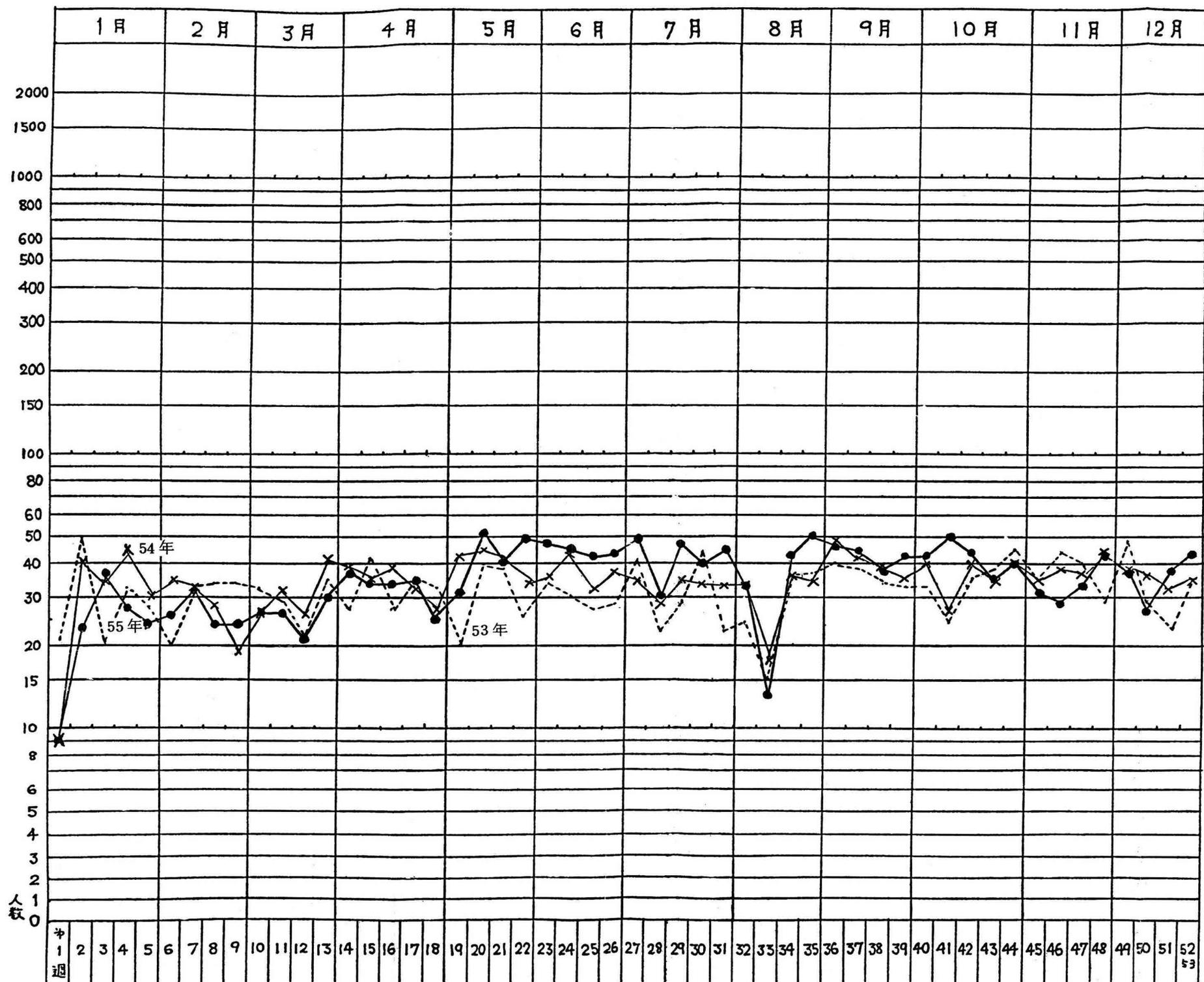


图10. 溶連菌感染症

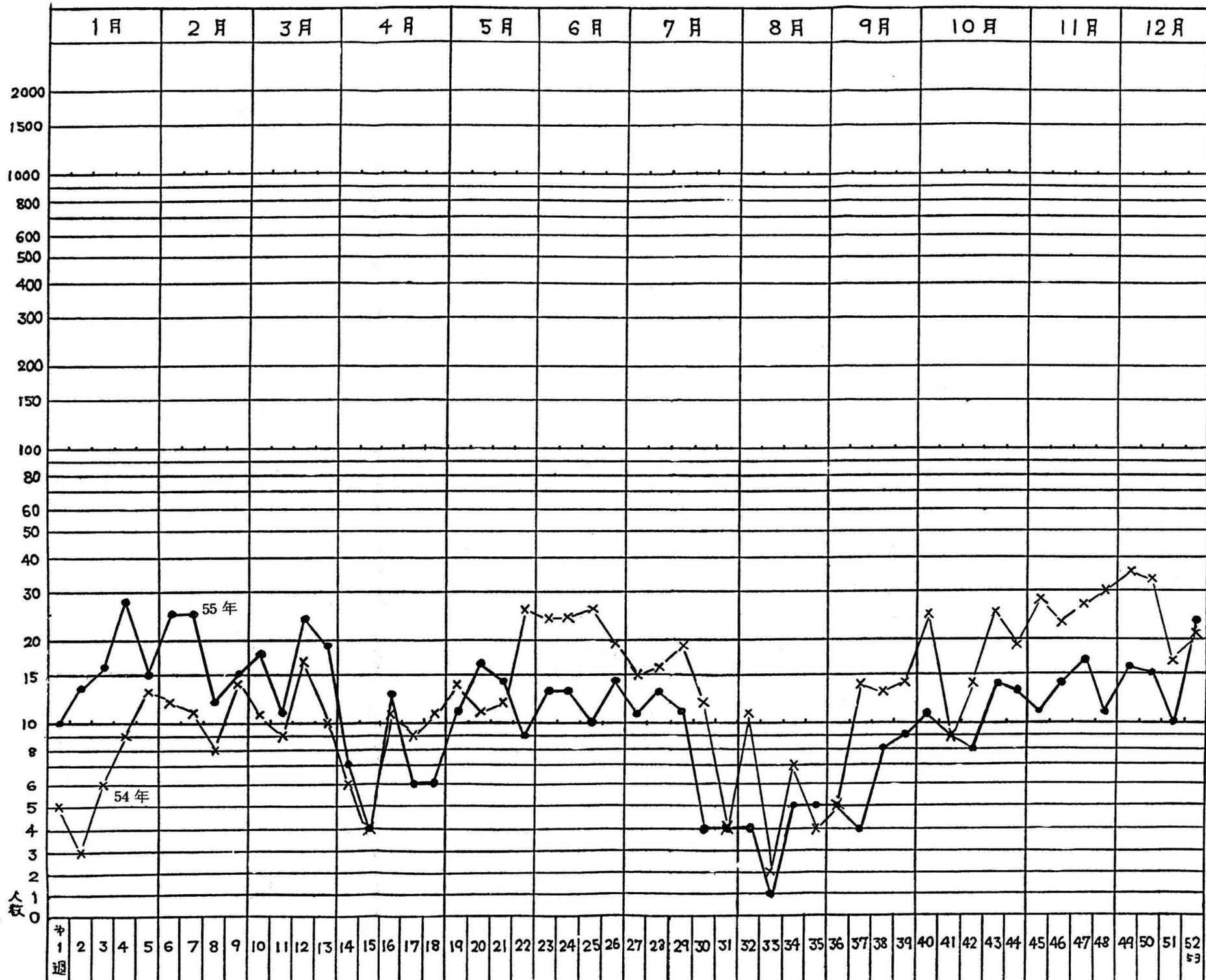


図11. 感冒性胃腸炎

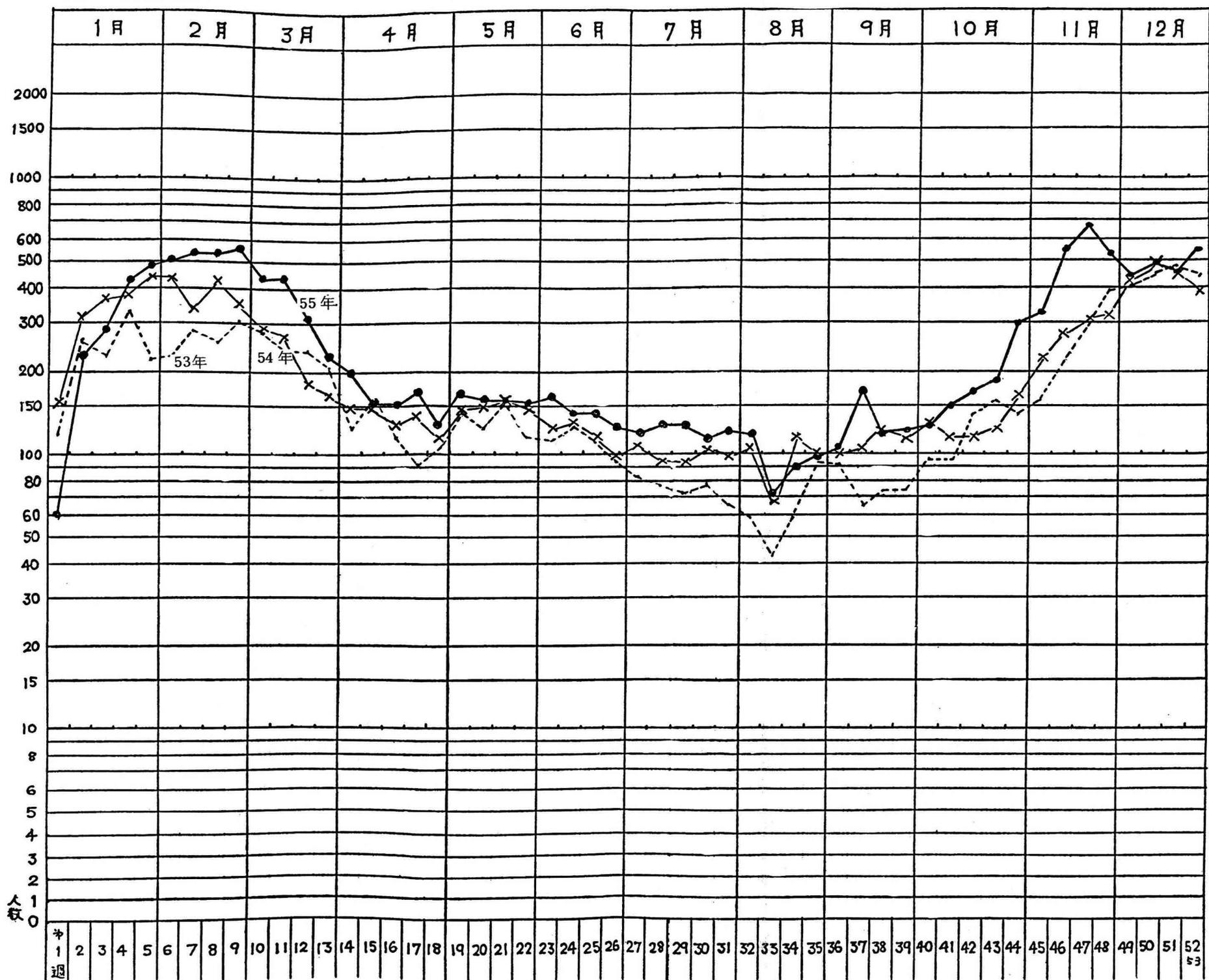


图12. 不明発疹症

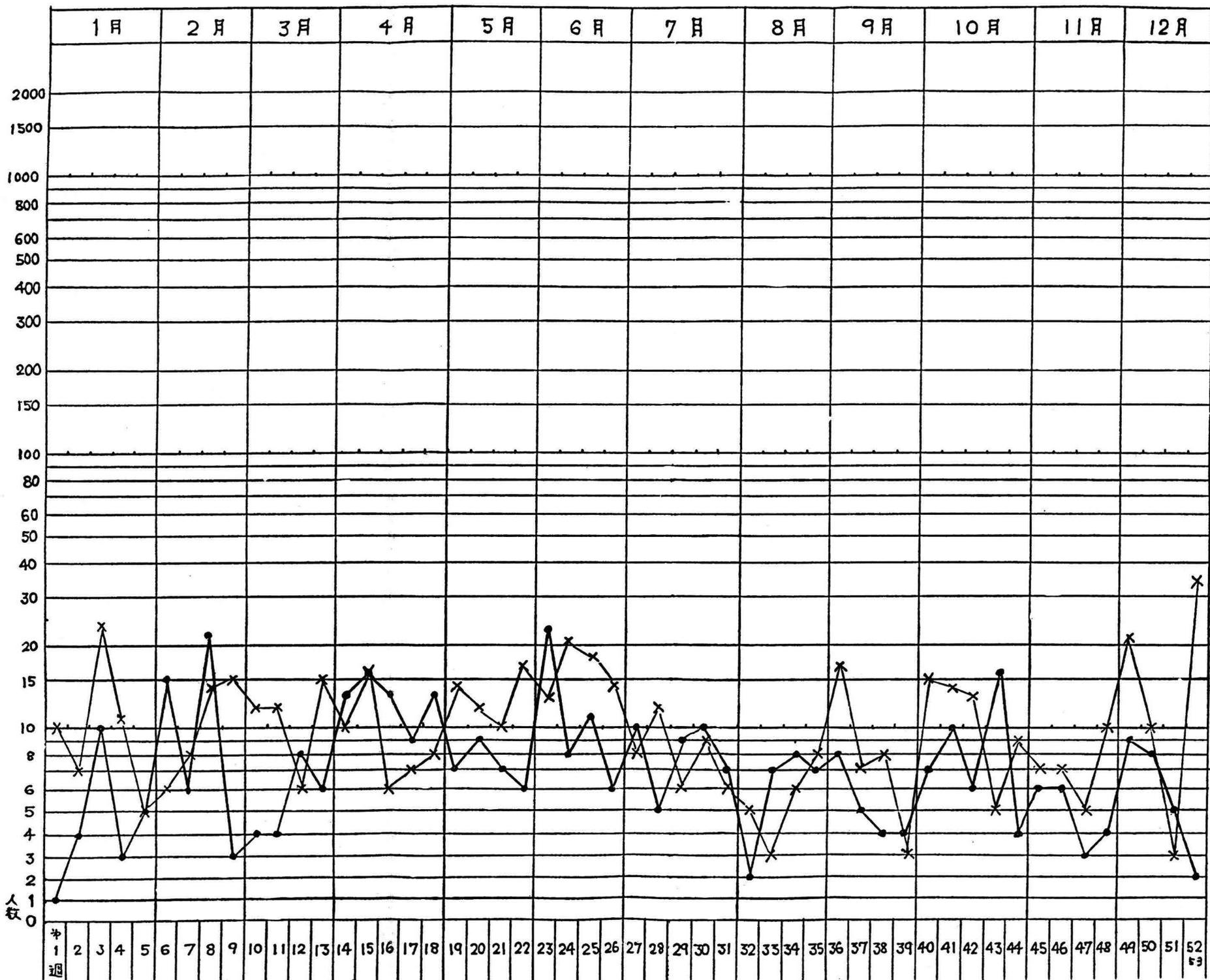
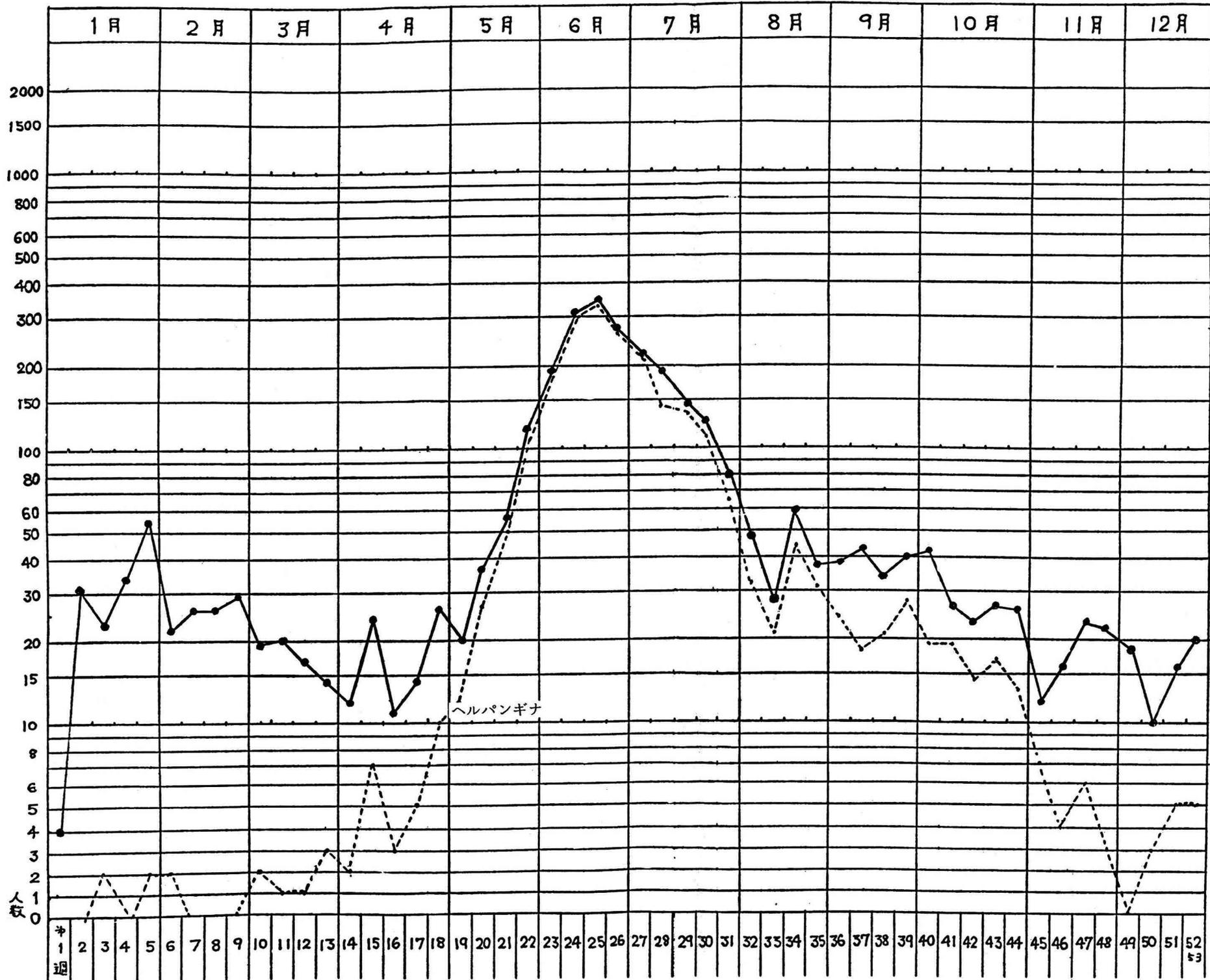


図13. その他の疾病



第13表 疾病別、年齢別、性別例数 ()内は%

病名	0才		1才		2才		3才		4才		5才		6-8才		9-11才		12-14才		計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
麻疹	13 28 (8.2)	15 15 (15.0)	38 78 (22.9)	40 40 (40.0)	31 55 (16.1)	24 24 (24.0)	24 39 (11.4)	15 15 (15.0)	19 32 (9.4)	13 13 (13.0)	25 46 (13.5)	21 21 (21.0)	29 48 (14.1)	19 19 (19.0)	2 10 (2.9)	8 8 (8.0)	2 5 (1.5)	3 3 (3.0)	183 (53.7)	158 (46.3)	341
水痘	62 130 (4.4)	68 68 (68.0)	147 272 (9.3)	125 125 (125.0)	173 332 (11.3)	159 159 (159.0)	186 380 (13.0)	194 194 (194.0)	248 504 (17.2)	256 256 (256.0)	268 505 (17.3)	237 237 (237.0)	329 656 (22.5)	327 327 (327.0)	55 109 (3.7)	54 54 (54.0)	16 38 (1.3)	22 22 (22.0)	1484 (50.7)	1442 (49.3)	2926
ムンプス	7 14 (1.2)	7 7 (7.0)	30 62 (5.5)	31 31 (31.0)	44 95 (8.4)	51 51 (51.0)	79 154 (13.6)	75 75 (75.0)	131 226 (19.9)	95 95 (95.0)	143 260 (22.8)	117 117 (117.0)	125 244 (21.4)	119 119 (119.0)	40 68 (6.0)	28 28 (28.0)	5 14 (1.2)	9 9 (9.0)	604 (53.2)	532 (46.8)	1136
百日咳	21 42 (24.7)	21 21 (21.0)	22 48 (28.2)	26 26 (26.0)	26 34 (20.0)	8 8 (8.0)	6 15 (8.8)	9 9 (9.0)	7 10 (5.9)	3 3 (3.0)	4 7 (4.1)	3 3 (3.0)	7 9 (5.3)	2 2 (2.0)	2 3 (1.8)	1 1 (1.0)	2 2 (1.2)	0 0 (0.0)	97 (57.1)	73 (42.9)	170
風疹	3 4 (5.3)	1 1 (1.0)	3 5 (6.6)	2 2 (2.0)	0 1 (1.3)	1 1 (1.0)	4 5 (6.6)	1 1 (1.0)	5 7 (9.2)	2 2 (2.0)	2 7 (9.2)	5 5 (5.0)	19 32 (42.1)	13 13 (13.0)	5 12 (15.8)	7 7 (7.0)	1 3 (3.9)	2 2 (2.0)	42 (55.3)	34 (44.7)	76
突発性発疹	793 1,618 (87.1)	825 825 (825.0)	94 192 (10.3)	98 98 (98.0)	12 23 (1.2)	11 11 (11.0)	2 4 (0.2)	2 2 (2.0)	4 7 (0.4)	2 2 (2.0)	4 5 (0.3)	1 1 (1.0)	5 7 (0.4)	2 2 (2.0)	1 1 (0.1)	0 0 (0.0)	0 0 (0.0)	0 0 (0.0)	915 (49.3)	941 (50.7)	1,856
伝染性紅斑	6 9 (0.8)	3 3 (3.0)	24 35 (3.1)	11 11 (11.0)	19 43 (3.8)	24 24 (24.0)	33 59 (5.3)	26 26 (26.0)	40 83 (7.4)	43 43 (43.0)	76 137 (12.2)	61 61 (61.0)	215 418 (37.4)	203 203 (203.0)	147 275 (24.6)	128 128 (128.0)	29 61 (5.4)	32 32 (32.0)	589 (52.6)	531 (47.4)	1,120
溶連菌感染症	1 3 (0.5)	2 2 (2.0)	8 15 (2.4)	7 7 (7.0)	23 38 (6.2)	15 15 (15.0)	33 56 (9.1)	23 23 (23.0)	51 91 (14.7)	40 40 (40.0)	82 148 (24.0)	66 66 (66.0)	107 203 (32.8)	96 96 (96.0)	30 52 (8.4)	22 22 (22.0)	7 11 (1.8)	4 4 (4.0)	342 (55.4)	275 (44.6)	617
手足口病	70 123 (26.0)	53 53 (53.0)	193 349 (24.0)	156 156 (156.0)	152 278 (19.1)	126 126 (126.0)	129 226 (15.6)	97 97 (97.0)	123 217 (15.0)	94 94 (94.0)	73 125 (8.6)	52 52 (52.0)	39 99 (6.8)	60 60 (60.0)	9 26 (1.8)	17 17 (17.0)	0 8 (0.6)	8 8 (8.0)	788 (54.3)	663 (45.7)	1,451
不明発疹症	55 112 (26.0)	57 57 (57.0)	39 71 (16.5)	32 32 (32.0)	26 45 (10.5)	19 19 (19.0)	19 38 (8.8)	19 19 (19.0)	24 35 (8.1)	11 11 (11.0)	21 39 (9.1)	18 18 (18.0)	24 51 (11.9)	27 27 (27.0)	13 27 (6.3)	14 14 (14.0)	7 12 (2.8)	5 5 (5.0)	228 (53.0)	202 (47.0)	430
インフルエンザ	103 167 (2.1)	64 64 (64.0)	252 449 (5.8)	197 197 (197.0)	316 570 (7.3)	254 254 (254.0)	403 757 (9.7)	354 354 (354.0)	499 911 (11.7)	412 412 (412.0)	574 1,075 (13.8)	501 501 (501.0)	1,101 2,059 (26.5)	958 958 (958.0)	621 1,149 (14.8)	528 528 (528.0)	369 642 (8.3)	273 273 (273.0)	4,238 (54.5)	3,541 (45.5)	7,779
感冒性胃腸炎	625 1,161 (8.6)	536 536 (536.0)	986 1,795 (13.3)	809 809 (809.0)	798 1,500 (11.1)	702 702 (702.0)	771 1,471 (10.9)	700 700 (700.0)	846 1,613 (11.9)	767 767 (767.0)	829 1,547 (11.4)	718 718 (718.0)	1,363 2,564 (18.8)	1,201 1,201 (1,201.0)	762 1,320 (9.8)	558 558 (558.0)	358 566 (4.2)	208 208 (208.0)	7,338 (54.2)	6,199 (45.8)	13,537
その他	206 358 (11.5)	152 152 (152.0)	404 744 (24.0)	340 340 (340.0)	282 557 (18.0)	275 275 (275.0)	218 391 (12.6)	173 173 (173.0)	200 358 (11.5)	158 158 (158.0)	146 280 (9.0)	134 134 (134.0)	154 301 (9.7)	147 147 (147.0)	41 84 (2.7)	43 43 (43.0)	12 32 (1.0)	20 20 (20.0)	1,663 (53.6)	1,442 (46.2)	3,105

図 14 疾病別、年齢別頻度

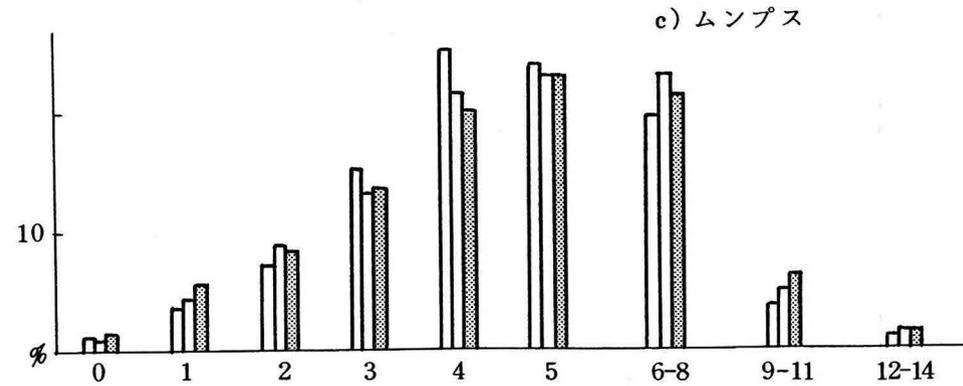
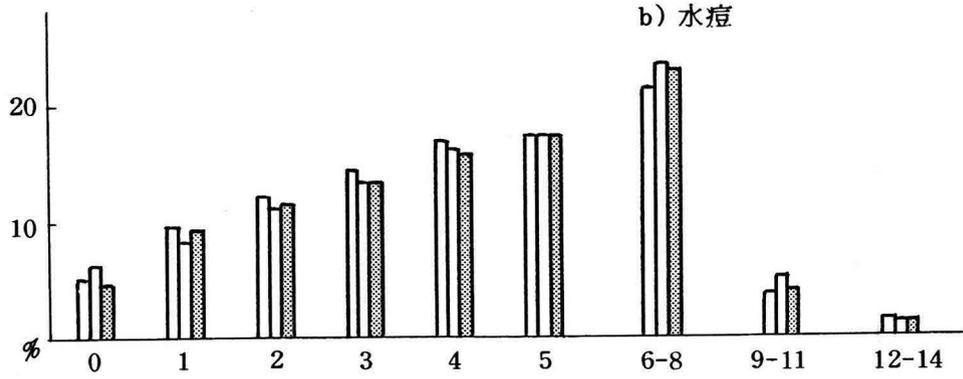
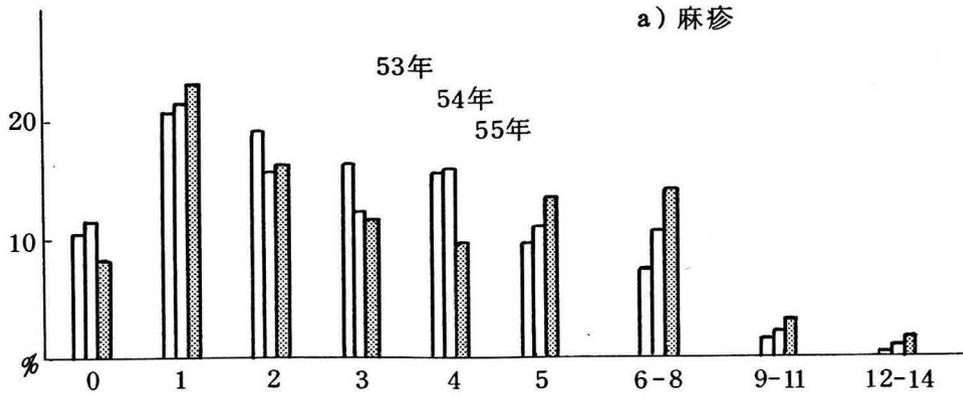


図 14

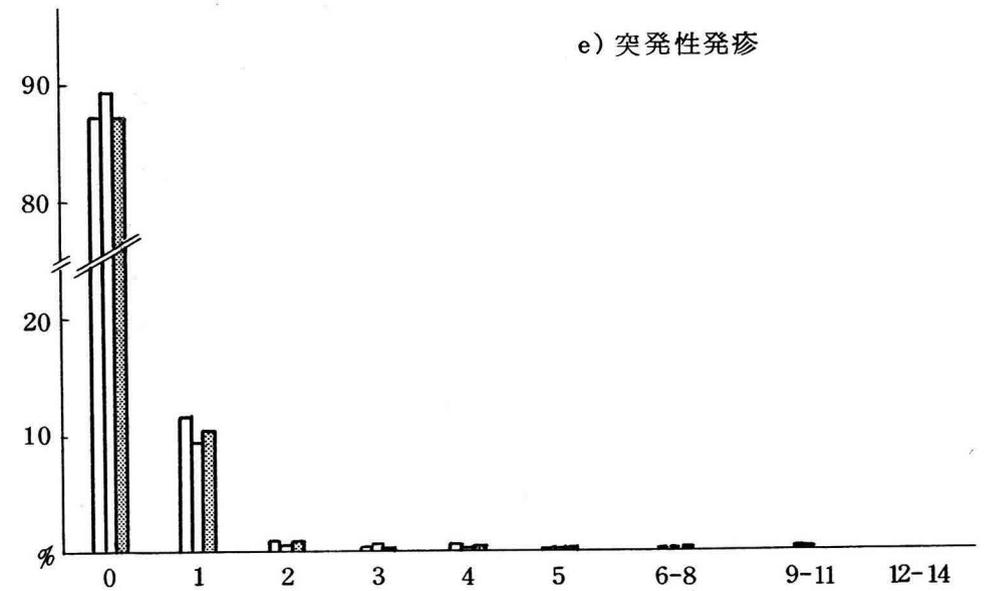
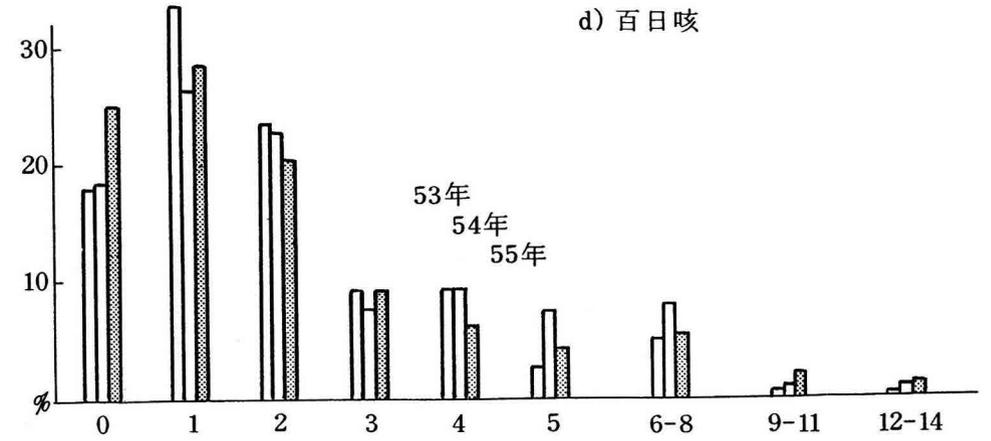


図 14

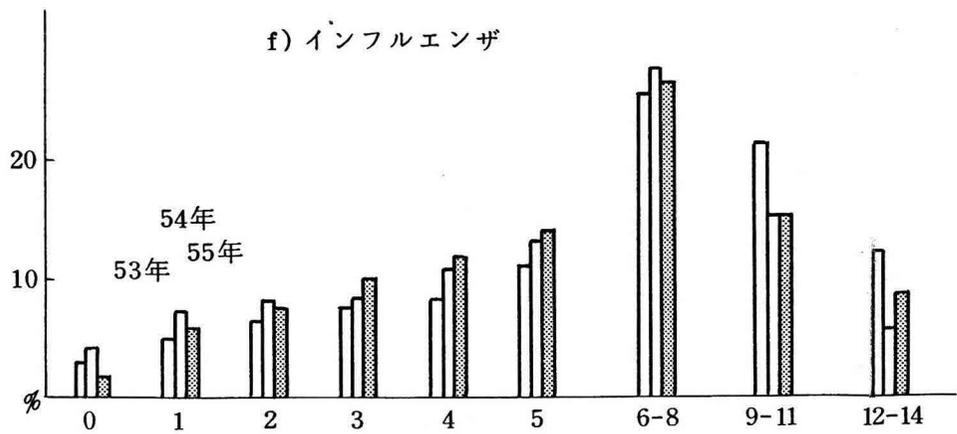


図 14

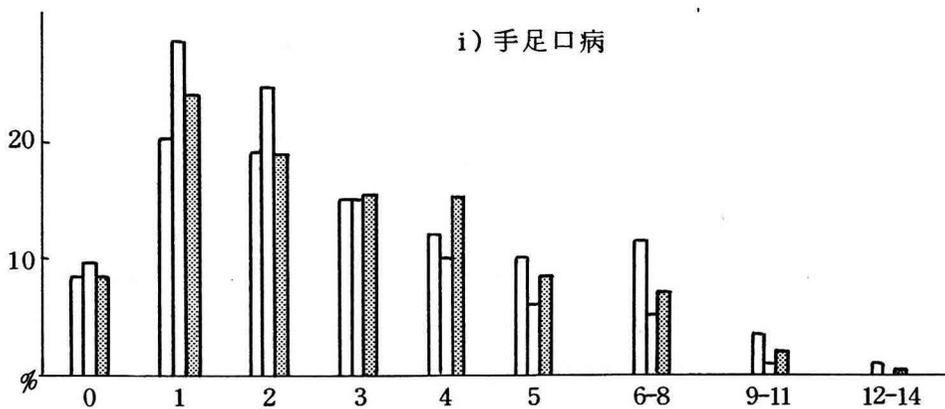
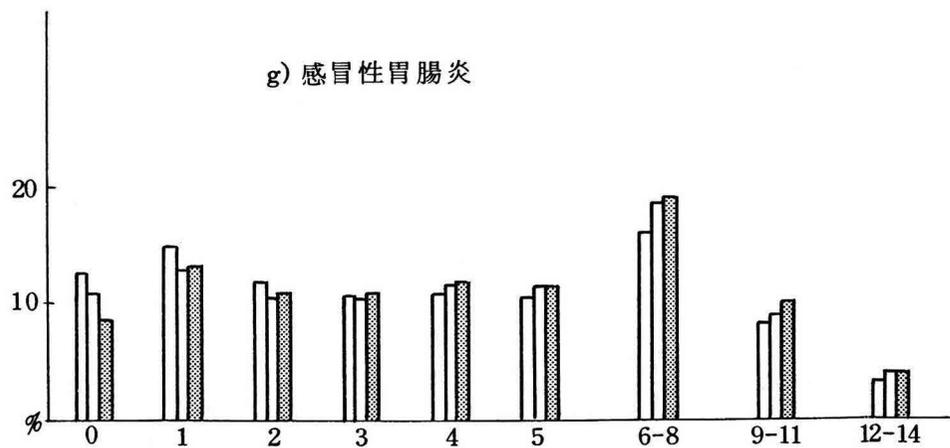
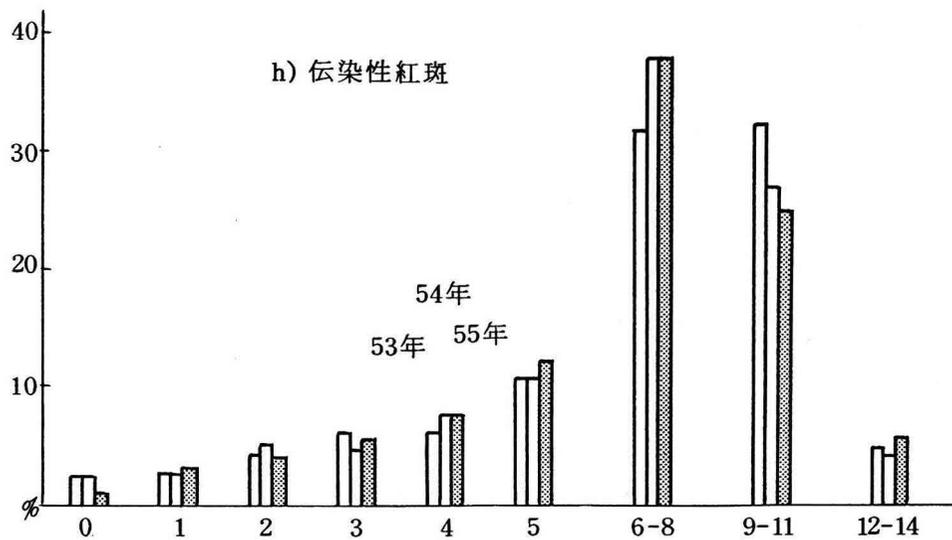
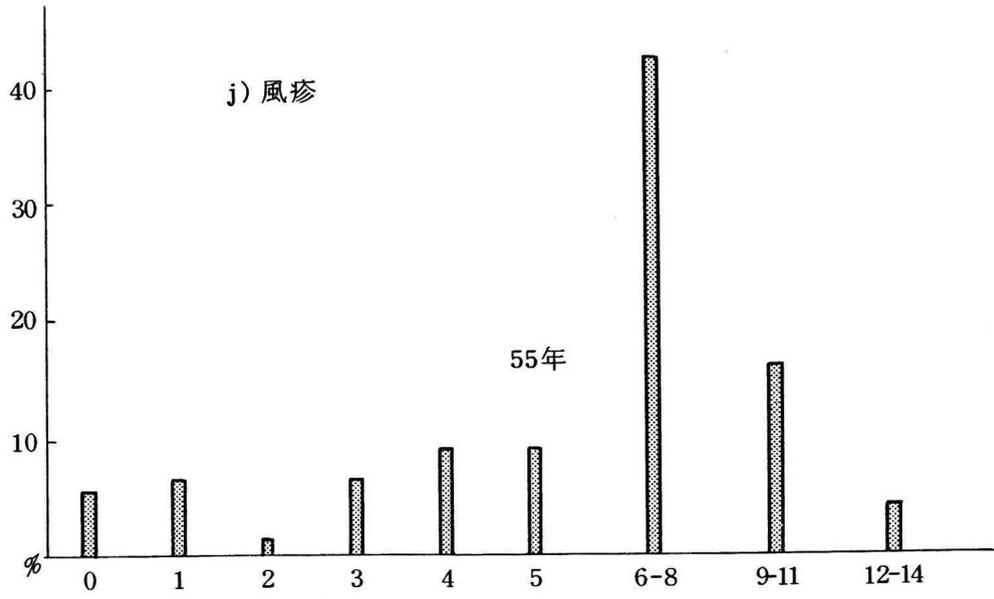
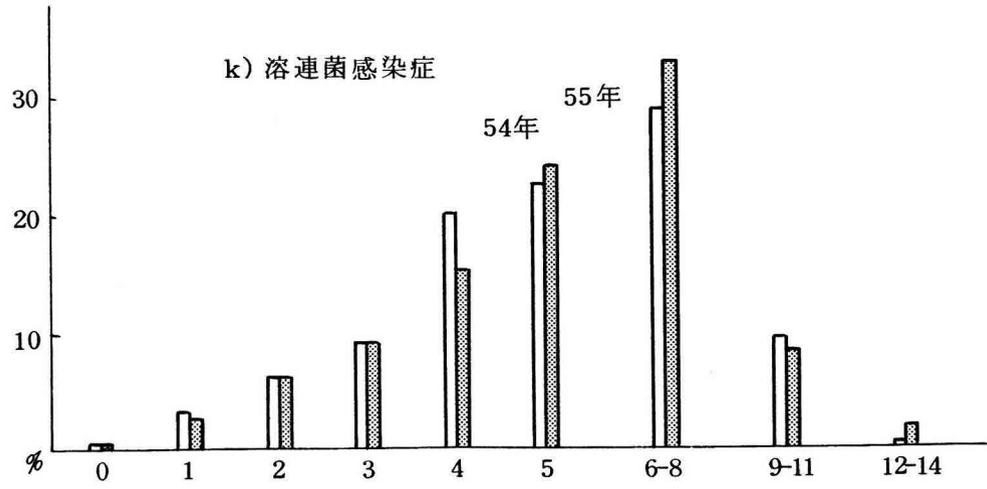


図 14

j) 風疹



k) 溶連菌感染症



7 400

3110140513

10
49
37-80A